

基準Ⅱ 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成17	<p>◎ 実務訓練を中心とする教育方法への取組が平成15年度に「特色ある大学教育支援プログラム(特色G P)」に「社会のダイナミズムに連動する高等技術教育—実務訓練を柱として—」のテーマで採択され、また、地域協働型工房教育プログラムが「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代G P)」に「地域協働型工房教育プログラムの開発と実践—地域社会を想う実践的創造的技術者養成を目指して—」というテーマで採択されている。(豊橋)</p> <p>◎ 一般教養教育、看護の基盤教育・専門教育の融合を図った教育への取組が評価され、平成15年度には、「特色ある大学教育支援プログラム(特色G P)」に、「総合的な判断力を持つ自律した看護職の育成—ヒト、人、人間の理解を目指して—」のテーマで採択されている。(大分県立看護)</p>		
平成18	<p>◎ 平成17年度に「青森へき地医療クリニック・フェローシップ—地域医療支援センターによる一貫サービスを基礎とする新教育プログラム—」が文部科学省医療人G Pに採択されている。また、平成18年度に「地域医療型クリニッククラークシップ教育」が文部科学省現代G Pに採択されている。(弘前)</p> <p>◎ 平成17年度に「各学部の特性を生かした全学的知的財産教育」、平成18年度に「持続可能な社会のための教養教育の再構築—『学びの銀河』プロジェクト」が文部科学省現代G Pに採択されている。(岩手)</p> <p>◎ 平成15年度に「三学部連携による地域・臨床型リーダー養成」、平成18年度に「ゲーミング・シミュレーション型授業の構築—社会的実践力を培う体験的学習プロジェクト—」が文部科学省特色G Pに採択されている。また、平成17年度に「教育研究リーダーの学校臨床型養成」が文部科学省教員養成G Pに採択されている。(秋田)</p> <p>◎ 平成16年度に「地域ネットワークFD“樹水”」及び「生涯医学教育拠点形成プログラム—包括的地域医療支援機構創設—」、平成18年度に「エリアキャンパス未来遺産創造プロジェクト」及び「体験と実習を礎とする職業観形成法の確立」が文部科学省現代G Pに採択されている。(山形)</p> <p>◎ 文部科学省21世紀COEプログラム(プログラム名:「ナノ未来材料」、「新エネルギー・物質代謝と生存科学の構築(経済性・安全性を主眼とした農工融合型物質エネルギー代謝と生存科学体系の構築)」の研究内容は、「COE特別講義」「COE国際コミュニケーション」の授業に反映されている。(東京農工)</p> <p>◎ 平成17年度に「ビデオ教材による技術リスク教育の高度化」が文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に採択されている。また、平成18年度に「MO T協議会における教育推進プログラム」が文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に採択されている。(東京農工)</p> <p>◎ 平成17年度に「知的財産創造・活用力を育成する教員の養成」が文部科学省現代G Pに採択されている。また、平成17年度に、「魅力ある教職生涯支援プロジェクトin京都」、平成18年度に「連合大学院による教員養成高度化京都モデル」が文部科学省教員養成G Pに採択されている。(京都教育)</p> <p>◎ 平成15年度に「『進取の気風』を育む創造性教育の推進」が文部科学省特色G Pに採択されている。また、平成16年度に「ユビキタス技術による新しい学習環境の創生」、平成18年度に「医療系学生の保育所実習による子育て支援—地域の保育所での継続的学習による医療人としての人間形成—」及び「豊饒な吉野川を接続可能とする共生環境教育」が文部科学省現代G Pに採択されるなど、平成15年度から平成18年度に、現代G P、特色G P等に10件採択されている。(徳島)</p>		
平成19	<p>◎ 科学技術を活用し創造する者の倫理観と社会的責任を有した技術者を養成することを目的に「技術者倫理」を必修科目として開設し、テキスト(『オムニバス技術者倫理』)を作成しており、この取組が「オムニバス形式による技術者倫理教育の実践—自立した技術者を目指す総合学習の展開—」として平成18年度の文部科学省特色G Pに採択されている。(室蘭工)</p> <p>◎ 平成16年度には、文部科学省現代G Pに「ITによる地域活性化教育支援システム」が採択され、IT技術を活用した学生及び地域技術者の資格取得支援が行われている。(北見工)</p> <p>○ 文部科学省特色G Pに採択されている「国際コンピテンシー人材育成教育プログラム」(平成15年度採択)、「融合型理科実験が育む自然理解と論理的思考」(平成17年度採択)及び「『学びの転換』を育む研究大学院少人数教育—基礎ゼミを起点とした『大学での学び』の構築—」(平成18年度採択)の3件の事業を通して、工学部学生の英語力向上、文系学生を含めた幅広い自然理解の素養拡大、学際的な少人数教育による初年次学生の主体的学習態度の涵養などの成果を上げている。また、同プログラムに複数の大学で採択されている「コアリッソンによる工学教育の相乗的改革」(平成16年度採択、東京工業大学 他)に参画している。(東北)</p> <p>○ 平成18年度の文部科学省医療人G Pに採択されている「地域ニーズ対応型総合周産期実践医療教育育成計画」では、総合周産期実践医を育成するため、産科、麻酔科及びNICUでの研修により周産期医療の横断的な習熟が図られている。(東北)</p> <p>○ 文部科学省大学教育の国際化推進プログラムについては、海外先進教育実践支援では、平成17年度に「次世代ソフトウェア実践教育プログラム—国際的教育プログラムによる先進ソフトウェア実践教育システム構築—」、平成18年度に「先進的ICTリテラシー強化教育プログラム—国際的教育プログラムによるコミュニケーション情報技術強化教育の構築—」の2件、戦略的国際連携支援では、平成17年度に「日欧・日中次世代指導者育成共同教育実践」の1件が採択されており、これら事業を通じて海外の大学との連携を推進している。(東北)</p> <p>○ 平成17年度の文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに「言語研究者・言語教育者養成プログラム」、「国際的若手研究者養成プログラム」、「フライト実践による航空宇宙フロンティア」、「生体・ナノ電子科学国際教育拠点」の4件が採択され、大学院生の海外における成果発表の奨励、英語コミュニケーション能力向上など、大学院教育の実質化に貢献している。(東北)</p> <p>○ 文部科学省法科大学院等専門職大学院形成支援プログラムには、平成16年度に「体験型政策教育による大学と実務との連携」が単独教育プロジェクトとして採択され、共同教育プロジェクトについては、平成16年度に「実務基礎教育の在り方に関する調査研究」、平成17年度に「会計大学院教育課程の国際水準への向上」の2件が採択されている。また、文部科学省法科大学院等専門職大学院教育推進プログラムには、平成18年度に「体験型教育の多角的実施と実務教育基盤構築」が単独教育プロジェクトとして採択され、共同教育プロジェクトについては、平成18年度に「会計職業のための資格取得後教育課程の編成」が採択されている。これらのプロジェクトを通じて、専門職養成のための教育内容・方法の改革を推し進めて、多様な体験型教育の成果を上げている。(東北)</p> <p>○ 平成19年度の文部科学省がんプロフェッショナル養成プランに「東北がんプロフェッショナル養成プラン」が採択されている。(東北)</p> <p>○ 平成19年度の文部科学省大学院教育改革支援プログラムについては、「実践指向型教育専門職の養成プログラム」、「環境フロンティア国際プログラム」、「理学の実践と応用を志す先端的科学者の養成」、「機械工学フロンティア創成」、「メディカルバイオエレクトロニクス教育拠点」、「多層的かつ双方向性の大学院医学教育実質化」の6件が採択されている。(東北)</p> <p>○ 平成19年度には、文部科学省大学教育の国際化推進プログラムの先端的国際連携支援に「修士博士一貫先進国際共同教育の展開—世界をリードする理工学分野における若手研究者、技術者の養成—」が採択されている。(東北)</p> <p>○ 平成19年度の文部科学省専門職大学院等教育推進プログラムに「心理学的法曹実務教育プログラムの構築」、「実務科目等の内容の明確・標準化の調査研究」の2件が採択されている。(東北)</p> <p>◎ 平成18年度に「教員養成のためのモジュール型コア教材開発—大学連携による臨床・実践・IT領域e-Learning用教材の共同開発—」が文部科学省現代G Pに採択され、関係機関と連携協働して、学校現場で生起している様々な教育課題の解決と改善に寄与できるような資質と実践的能力を有する教員を育成するための標準的なプログラムを目指したコア教材を開発している。(福島)</p> <p>◎ 平成19年度に「高齢社会における弱者の権利と生活を護る担い手育成プログラム」が文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラムに採択されている。(福島)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 平成17年度の文部科学省特色G Pに採択されている「診断能力向上をめざす臨床医学教育の取組み」では、学生の診断能力の向上が図られており、平成18年度の特徴G Pに採択されている「学生主体の環境マネジメントシステムの運営」では、各キャンパスに置かれている環境ISO学生委員会の主体的活動をシステム化し、学生主体の環境マネジメントシステムの運営を推進している。(千葉)</p> <p>◎ 平成17年度の文部科学省教員養成G Pに採択されている「プレ10・ポスト10教員研修プログラム」では、教員研修を開発・検証し、その成果を教員養成の改善に反映する取組が行われている。(千葉)</p> <p>◎ 平成17年度の文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブには、「高度デザイン研究者養成プログラム」、「地球診断学創成プログラム」、「情報集積型医療創薬を担う若手研究者の育成」の3件が採択され、大学院における学習指導の強化に寄与している。(千葉)</p> <p>◎ 平成18年度の文部科学省特色G Pに採択されている「課題プロジェクトによる看護管理能力の開発」では、現職の看護管理者を受け入れ、仕事と学業の両立を図る工夫がなされている。(千葉)</p> <p>◎ 平成16年度の文部科学省法科大学院等専門職大学院形成支援プログラムに採択されている「実践ケース・スタディの開発」では、理論と実務の有機的連携を図る授業科目の開発が行われている。(千葉)</p> <p>◎ 平成19年度には、文部科学省特色G Pに「パーソナルデスクラボによる実験教育の展開ー新機器開発による少人数組・一斉実験教育の実現ー」が採択されている。(千葉)</p> <p>◎ 平成19年度には、文部科学省現代G Pに「共生環境デザインによる房総半島活性化支援ー地域の人たちとともに学び、考え、行動するホームタウンデザイナーの育成ー」、「自律した医療組織人育成の教育プログラムー専門職連携能力育成をコアに置いた人材育成ー」、「統合型英語Online CALLシステムー社会のニーズに応える英語コミュニケーション能力を養成するための英語Web CALLシステムの開発ー」の3件が採択されている。(千葉)</p> <p>◎ 平成19年度には、文部科学省大学院教育改革支援プログラムに「実践的公共実質化のための教育プログラム」、「高度デザイン教育プログラム」、「大学院環境園芸学エキスパートプログラム」、「専門看護師育成・強化プログラム」、「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」の5件が採択されている。(千葉)</p> <p>◎ 平成19年度には、文部科学省がんプロフェッショナル養成プランに「関東広域多職種がん専門家チーム」が採択されている。(千葉)</p> <p>◎ 平成19年度には、文部科学省専門職大学院等教育推進プログラムに「総合的実務基礎教育のモデル形成ー法科大学院におけるエクスターンシップ受入機関および学生の提案を反映する多方向的チャンネルの確立ー」が採択されている。(千葉)</p>		
<p>◎ 文部科学省21世紀COEプログラム、文部科学省特別教育研究経費に基づく教育研究プロジェクトなどの外部資金による研究成果が、多くの授業で取り入れられている。(東京外語)</p> <p>◎ 平成15年度に「26言語情報リテラシー教育プログラム」、平成16年度に「生きた言語修得のための26言語・語劇支援」が文部科学省特色G Pに採択され、それに基づく正規教育と補充教育が数多く実施されている。(東京外語)</p> <p>◎ 平成16年度に「在日外国人児童生徒への学習支援活動」が文部科学省現代G Pに採択され、それに基づく正規教育と補充教育が数多く実施されている。また、平成17年度に採択された「e-日本語ーインターネットで拡げる日本語の世界ー」で開発した日本語教材等を用いて授業に活用している。(東京外語)</p> <p>◎ 平成17年度に「多言語社会に貢献する言語教育学研究者養成」が文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択され、言語教育学の人材養成のための取組が行われ、大学院教育の実質化に貢献している。(東京外語)</p> <p>◎ 平成19年度に「教養日本力」高度化推進プログラムが文部科学省特色G Pに採択されている。(東京外語)</p> <p>◎ 平成19年度に「高度な言語運用能力に基づく地域研究者養成」、「即戦力通訳者養成のための高度化プログラム」、「平和構築・紛争予防修士英語プログラム」が文部科学省大学院教育改革支援プログラムに採択されている。(東京外語)</p> <p>◎ 平成19年度に「コアパスに基づく言語学教育研究拠点」が文部科学省グローバルCOEプログラムに採択されている。(東京外語)</p>		
<p>◎ 平成15年度文部科学省特色G P「進化する創造性教育」の採択を契機に、45科目を創造性育成科目として認定・選定し、創造性教育をより進化・発展させている。また、平成18年度に採択された学生による教材づくりを通じた競争的及び独自の創造性育成プログラム「小中校用バイオ教材開発による競創的教育」が実施され、学生の創造性を啓発し涵養し練磨する営みを全学挙げて行っている。(東京工大)</p> <p>◎ 平成17年度に「工学導入教育教材の開発」が文部科学省現代G Pに採択され、工学導入教育において対話型e-learning教材を開発し、2年次以降のカリキュラムのオンライン教材(OCW)に連動させ、学生の関心や嗜好に合わせた学習を可能としている。(東京工大)</p> <p>◎ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブによる「次世代VLSI設計プロジェクト教育」、「社会イノベーション・リーダーの養成」、「マスターズミニマムによる大学院教育の強化」(以上、平成17年度採択)、「国際的リーダーシップをもつ物理学者の養成」(平成18年度採択)が実施され、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者育成機能の強化が図られている。(東京工大)</p> <p>◎ 平成17年度に「東工大ー清華大大学院合同プログラム 国際的リーダーシップを發揮する理工系人材育成プログラム」が文部科学省大学教育の国際化推進プログラム(戦略的国際連携支援)に採択され、日本語、中国語及び英語の素養を持った優れた理工系の人材を養成し、両国の科学技術及び産業経済の発展に資している。(東京工大)</p> <p>◎ 平成17年度に「日本型技術経営教育のためのケース教材開発ー実践インターンまで含めた一貫教育プロセスー」が文部科学省法科大学院等専門職大学院形成支援プログラムに採択され、ほぼすべての講義に当該大学で開発したケース教材を取り入れることによる「MOT実践的能力の涵養」が実践されている。(東京工大)</p> <p>◎ 平成19年度に「工学教育プログラムの継続的進化ー世界最高水準の工学教育の実現を目指してー」が文部科学省特色G Pに採択されている。(東京工大)</p> <p>◎ 平成19年度に「高度化学計測能力を備えた先導的研究者養成」、「研究者高度育成コース」の発展的強化、「国際連携を核とした先導的技術者の育成」、「大学院教育プラットフォームの革新」、「実践・理論融合の国際的起業家養成」が文部科学省大学院教育改革支援プログラムに採択されている。(東京工大)</p> <p>◎ 平成19年度に「生命時空間ネットワーク進化型教育研究拠点」、「材料イノベーションのための教育研究拠点」、「新たな分子化学創発を目指す教育研究拠点」、「計算世界観の深化と展開」、「フォトニクス集積コアエレクトロニクス」が文部科学省グローバルCOEプログラムに採択されている。(東京工大)</p> <p>◎ 平成19年度に「企業内社会人のキャリアアップを支援する「エッセンシャルMOT」」が文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラムに採択されている。(東京工大)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 文部科学省21世紀COEプログラムにおける先端的研究成果を大学院授業へ反映させ、博士課程大学院学生のCOEフェローとしての参画など、高度な研究の推進と大学院教育が結合されている。(一橋)</p> <p>◎ 平成16年度に「人間環境キーステーションとまちづくり授業」が文部科学省特色GPに採択され、フィールドワークを含めた学生の主体的実習を通し、地域との連携が図られている。(一橋)</p> <p>◎ 平成17年度に「日欧交信型法学生研究者養成プログラム」、平成18年度に「社会科学の先端的な研究者養成プログラム」が文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択され、大学院教育の実質化に向けた授業を展開している。(一橋)</p> <p>◎ 平成16年度に「科目横断的法曹倫理教育の開発プロジェクト」(法科大学院教育高度化推進プログラム)、「日本発ビジネス・ケースの作成と配信」(専門職大学院教育高度化推進プログラム)が文部科学省法科大学院等専門職大学院形成支援プログラムに採択されている。また、平成18年度に「日本発のケースによる高度専門職業人の養成」が文部科学省法科大学院等専門職大学院教育推進プログラムに採択され、教育内容と方法の高度化を推進している。(一橋)</p> <p>◎ 平成15年度に「現代経済システムの規範的評価と社会的選択」、「社会科学の統計分析拠点構築」、「知識・企業・イノベーションのダイナミクス」、平成16年度に「ヨーロッパの革新的研究拠点」が文部科学省21世紀COEプログラムに採択され、研究成果を授業に反映している。(一橋)</p> <p>◎ 平成19年度に「同窓会と連携する先駆的キャリア教育モデル—寄附講義によるコア・プログラム構築とキャリア形成支援活動との有機的連携—」が文部科学省現代GPに採択されている。(一橋)</p> <p>◎ 平成19年度に「文系修士課程における金融工学教育モデル」、「ディベート教育による新時代のリーダー育成」、「キャリアデザインの場としての大学院」が文部科学省大学院教育改革支援プログラムに採択されている。(一橋)</p> <p>◎ 平成19年度に「継続的法曹倫理教育の開発」が文部科学省専門職大学院等教育推進プログラムの法科大学院における教育方法・内容の開発・充実を行う取組として採択されている。(一橋)</p>		
<p>◎ 平成16年度に文部科学省現代GPに採択された「地域交流科目による学生参画型実践教育—都市再生を目指す地域連携—」により地域交流科目を教養教育科目と専門教育科目に開設して地域に開かれた活動が展開されている。また、「経営学eラーニングの開発と実践—ゲーミングメソッドを基盤として—」では従来の講義、ケーススタディに加えて、ビジネスゲームによる体験学習(ゲーミングメソッド)との三位一体化をインターネット技術で実現するプログラムが実施されている。(横浜)</p> <p>◎ 文部科学省教員養成GPとして、平成17年度に「横浜スタンダード開発による小学校教員養成」が採択され、横浜市教育委員会・拠点小学校と連携した高い質と水準を保證する実践的小学校教員養成を図り、社会の要請にこたえる教育プログラムが推進されている。(横浜)</p> <p>◎ 文部科学省新興分野人材養成プログラム(平成16~20年度)として「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」を開設し、在籍する研究科・学府での教育や研究のほかに、先進的なリスク分析技術やリスクコミュニケーション手法に関連したワークショップ科目を履修することによりリスクマネジメントを実践できる能力を身に付けた履修者に対して、ユニットの修了証を授与している。(横浜)</p> <p>◎ 平成17年度に文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択された「実践性・国際性を備えた研究者養成システム」では各種研究プロジェクトや国際学会での報告を演習として位置付け、研究者インターンシップ的な活動を単位化している。また、「医学情報処理エキスパート育成拠点の形成」により横浜市立大学との同時リアルタイム講義をハイビジョン遠隔講義システムによって実施している。(横浜)</p> <p>◎ 平成17年度に文部科学省大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育実践支援)に採択された「イノベーションを指向した工学系大学院教育」において、技術革新を旗印に実施されている米国及び英国の新しい大学院教育システムを視察・調査した成果等を加味して、独自の教育プログラムであるPEDプログラムの開発・導入につなげている。(横浜)</p> <p>◎ 平成18年度に文部科学省特色GPに採択された「スタジオ教育強化による高度専門建築家養成」により幅広い視野と問題解決能力を持った高度専門建築家への育成を目指した「スタジオ教育」を実践しており、当該プログラムを発展させ、国際的に通用する建築家を養成する大学院「建築都市スクール」を開設している。(横浜)</p> <p>◎ 平成16年度に文部科学省法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム;実践的教育推進プログラムに採択された「持続可能な実務教育体制と教材開発—「横浜モデル」の導入—」において、横浜弁護士会所属の弁護士のバックアップにより当該専攻に所属する実務家専任教員担当科目の教材・実施提要进行検討・作成し、実際に授業に利用している。(横浜)</p> <p>◎ 平成19年度に、文部科学省特色GPに「体験型経営学教育のための教員養成計画—経営体験型シミュレーション教育の全国FD展開—」が採択されている。(横浜)</p> <p>◎ 平成19年度に、文部科学省大学院教育改革支援プログラムとして「経済・工学連携による金融プログラム」、「貿易と開発に関わる専門人材養成プログラム」及び「医療・福祉分野で活躍できる情報系人材育成」の3件が採択されている。(横浜)</p> <p>◎ 平成19年度に、文部科学省専門職大学院等教育推進プログラムとして「展開・先端科目を中心とした教材開発—地域弁護士会と連携して—」が採択されている。(横浜)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 文部科学省地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラムにおいて、平成17年度に「中越地震に学ぶ赤ひげチーム医療人の育成」が対応した医療人教育支援プログラムに採択され、「地域支援テレビ会議システム」による地域医療病院医師との会話形式の講義やワークショップの開催、中越地震被災地での仮設住宅や仮設診療所の見学、チームでのへき地を含む地域における訪問診療や訪問看護等の地域医療体験実習等を実施している。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成18年度に「企業連携に基づく実践的工学キャリア教育—職業意識の自己形成に向けた学生・技術者・教員の協働—」が採択され、キャリア教育がより実践的なものとなるなど教育改革に貢献している。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省特色G Pにおいて、平成15年度に「ものづくりを支える工学力教育の拠点形成—創造性豊かな技術者を志す学生の連携による教育プログラム—」(共同プロジェクト)、平成18年度に「学生主体の三位一体新歯学教育課程—社会に貢献する包括的歯科医師の育成を目指して—」が採択され、技術者との対話を可能とするネットワークシステムを構築及び歯学部において学生主体型教育への転換を行っている。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブにおいて、平成17年度に「留学生大学院教育の実質化による国際貢献」が採択され、留学生が1年間で基礎教育を受け、次年度帰国した後、e-learningによる授業で単位を修得し、両大学の指導により学位論文が完成できるよう環境整備を図っている。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省法科大学院等専門職大学院形成支援プログラムにおいて、平成16年度に「裁判と法実務の国際的体験研修プログラム」(共同プロジェクト)及び「法学未修者向け導入教育プログラム開発」、平成17年度に「地域の国際化に対応する教育プログラム開発」(共同プロジェクト)が採択され、法科大学院生が諸外国の裁判制度と法実務の実態を海外研修によって把握し、それを通じて「国際的」な実務家法曹及び研究者法曹を養成する取組、法学未修者に「法的な理解と思考」を身に付けさせ、民法の体系的理解を容易にするための導入教育プログラムの開発及び地域経済の構造的特質により異なる具体的問題に対応し得る法的見識と国際的視野を涵養する法曹教育のあり方の検討、教材の研究・開発を行っている。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省特色G Pにおいて、平成19年度に「総合大学における外国語教育の新しいモデル—初修外国語カリキュラムの多様化と学士課程一貫教育システムの構築—」が採択されている。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムにおいて、平成19年度に「ダブルホーム制による、いきいき学生支援—地域協働による、学生の自律を目指す、予防的環境の構築—」が採択されている。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省専門職大学院等教育推進プログラムにおいて、平成19年度に「実務技能教育指導要綱作成プロジェクト」(共同プロジェクト)が採択されている。(新潟)</p>		
<p>◎ 初等教育実習で実習期間を夏休みをはさんだ前期(1週間)と後期(3週間)に分割して行う取組が、平成17年度に「教職キャリア教育による実践的指導力の育成—分離方式の初等教育実習を中核として—」として文部科学省特色G Pに採択され、専門的力と教育実践に精通した有能な教師を育てるという大学の理念を具現化するための取組が実施されている。(上越教育)</p> <p>◎ 平成18年度に「海外実習による異文化理解マインドの育成—学校現場における自律的実践を通して—」が文部科学省大学教育の国際化推進プログラム海外先進教育実践支援に採択され、海外学校現場インターンシップを通して、自律的アクションリサーチの実践を行うための新たな大学院授業科目「海外フィールド・スタディ」の開設と海外実習プログラムの開発を目的とした取組が実施されている。(上越教育)</p> <p>◎ 平成17年度に「マルチコラボレーションによる実践力の形成—学校現場の教育課題に対応した学校教育プログラムと大学の教師教育プログラムの開発を通して—」が文部科学省教員養成G Pに採択され、大学院における質の高い教師教育及び学校現場の教育活動への貢献を実現するための取組が実施されている。(上越教育)</p>		
<p>◎ 文部科学省現代G Pに、平成16年度に「大学連携による石川の『知』の拠点の創出—いわてシカレレッジの整備・充実—」、「IT教育用素材集の開発とIT教育の推進」の2件が採択され、他大学との単位互換及び実践的遠隔教育(e-learning)などが実施されている。(金沢)</p> <p>◎ 文部科学省教員養成G Pに、平成18年度に「WEB教育実習—ノートによる自主学習の支援—「なるため実習ノート」を活用した高等学校教員養成における訪問対話型教育実習指導・評価システムの構築—」が採択され、事前・事後指導、授業準備・実践・評価、成績評定等を網羅したWEBノートによる教育実習の学習支援システムの構築が行われている。(金沢)</p> <p>◎ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに、平成18年度に「臨地相互交流型教育—研究プログラム—保健学研究・他大学・職能団体の知財と地域資源を活用した人材育成—」が採択され、研究能力を持った高度専門医療人、臨地実践能力のある研究者や新課題開発能力のある研究者の育成が手掛けられている。(金沢)</p> <p>◎ 文部科学省大学院教育改革支援プログラムに、平成19年度に「プロジェクト研究を通じた自立的研究者養成」、「大学連合による計算科学の最先端人材育成」の2件が採択されている。(金沢)</p> <p>◎ 文部科学省がんプロフェッショナル養成プランに、平成19年度に「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム—ICTによる融合型教育システム及び「がんプロネット」の構築—」が採択されている。(金沢)</p> <p>◎ 文部科学省法科大学院等専門職大学院形成支援プログラムに、平成16年度に「法情報センター北陸」が採択され、民事・刑事の模擬裁判が実施されている。(金沢)</p> <p>◎ 文部科学省21世紀COEプログラムに、平成14年度に「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」が採択され、その内容を共通教育科目の「環日本海」に反映し、最新の環境科学の動向が取り入れられている。(金沢)</p>		
<p>◎ 博士課程の環境社会創生工学専攻に、平成15年度に採択された文部科学省21世紀COEプログラムによる教育研究拠点として「国際流域総合水管理特別コース」を設置し、授業内容の充実と高度化を図り、特色ある教育を行っている。(山梨)</p>		
<p>◎ 平成16年度に「環境マインドをもつ人材の養成」プロジェクトが文部科学省特色G Pに採択され、活動の1つとして、教職員と学生が協力してエコキャンパスを構築し、その維持・改善の実践的な活動を通じて、5つの主要キャンパスすべてがISO14001の認証を取得している。(信州)</p> <p>◎ 教育学部・教育学研究科における『「臨床の知」の実現—蓄積する体験と深化する省察による実践的指導力の育成—』が、平成17年度文部科学省教員養成G Pに採択され、教育理念である「臨床の知」に基づく学部カリキュラムを構築し、実践的指導力のある教員の養成を図っている。(信州)</p> <p>◎ 平成16年度に「信州大発“学び”のビックバンプロジェクト」、平成18年度に「自ら学び、学び続ける人材育成の基盤形成」プロジェクトが文部科学省現代G Pに採択され、その取組が全学的なe-Learningの拡充に貢献している。(信州)</p> <p>◎ 教育学研究科における「問題志向のコースワーク設計による人材育成—実践と研究の一体化による特別支援学校教員対象の大学院プログラム—」が、平成19年度文部科学省専門職大学院等教育推進プログラムに採択されている。(信州)</p> <p>◎ 教育学研究科における「授業研究アリーナで共創する『臨床の知』」及び経済・社会政策科学研究科経済・社会政策科学専攻における「双方ワークショップ型地域作り社会人教育」が、平成19年度文部科学省大学院教育改革支援プログラムに採択されている。(信州)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 平成15年度に文部科学省特色G Pに採択された「能動・思考促進型を柱とする全人的医学教育」では、テューリアル教育、診療参加型臨床実習等が実施され、医学教育方法の工夫がなされている。(岐阜)</p> <p>◎ 平成16年度に文部科学省特色G Pに採択された「地域・大学共生型教師教育システム」は、現職教員の研修プログラム、テレビ会議システムを利用した夜間遠隔大学院及び免許法認定公開講座、学校現場と大学との往復的な実践教育の3つの取組の成果を基にしている。(岐阜)</p> <p>◎ 平成16年度に文部科学省現代G Pに採択された「地域協学型の風土保全教育プログラムーぎふ公民館大学ー」では、地域社会と大学の教員及び学生が協同して、特徴ある風土を保全する教育システムを構築するなど、地域社会の要請に応えている。(岐阜)</p> <p>◎ 平成16年度に文部科学省現代G Pに採択された「教師のための遠隔大学院カリキュラムの開発」では、現職教師が自宅や職場でのネットワーク環境下で学習ができるなど工夫がなされている。(岐阜)</p> <p>◎ 平成18年度に文部科学省教員養成G Pに採択された「教育臨床実習重視の教師発達支援プログラム」では、教師の課題探究能力を形成することを目的としたプログラムを開発・推進している。(岐阜)</p> <p>◎ 平成19年度に「臨床医学教育を強化向上させるICTe-Learningで培う医の心と技ー」が文部科学省現代G Pに採択されている。(岐阜)</p>		
<p>◎ 平成15年度に「創成型工学教育支援プログラム」が文部科学省特色G Pに採択され、異分野グループ集団ダイナミクスによる創造性・総合性の涵養に教育効果をあげている。また、平成16年度には、複数の大学で採択されている「コアリッションによる工学教育の相乗的改革」に参画している。(名古屋)</p> <p>◎ 平成18年度に「専門教育型キャリア教育体系の構築ー専門教育の質的發展を通じた学生・院生の資質向上ー」が文部科学省現代G Pに採択され、結果としてインターンシップ参加者数が増加している。(名古屋)</p> <p>◎ 平成18年度に「人脈形成型の国際連携法学教育環境の構築ー日本人学生と留学生とで協力学習する法学部カリキュラムの開発ー」が文部科学省大学教育の国際化推進プログラム戦略的国際連携支援に採択され、国際的視野で法律・政治を学ぶ環境を構築している。(名古屋)</p> <p>◎ 平成17年度に「チーム参加型プログラムによる教育の体系化」、「発信型研究者養成を目指す法学・政治学教育」、「国際開発分野における自立的研究能力の育成」、「官学連携による生命技術科学教育の推進」の4件、平成18年度に「人文学フィールドワーカー養成プログラム」、「社会環境学教育カリキュラムの構築」の2件が文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業に採択され、大学院教育改革に積極的に取り組んでいる。(名古屋)</p> <p>◎ 平成16年度に「自分の技量を随時確認できる多様な環境構築」、「実務技能教育教材共同開発共有プロジェクト」、「実務基礎教育の在り方に関する調査研究」の3件が文部科学省法科大学院等専門職大学院形成支援プログラムに採択され、専門職大学院の教育改革に積極的に取り組んでいる。(名古屋)</p> <p>◎ 平成14年度に「システム生命科学：分子シグナル系の統合」、「新世紀の食を担う植物バイオサイエンス」、「自然に学ぶ材料プロセスの創成」、「物質科学の拠点形成：分子機能の解明と創成」、「社会情報基盤のための音声・映像の知的統合」、「先端プラズマ科学が拓くナノ情報デバイス」、「統合テキスト科学の構築」の7件、平成15年度に「神経疾患・腫瘍の統合分子医学の拠点形成」、「宇宙と物質の起源：宇宙史の物理学的解説」、「太陽・地球・生命圏相互作用系の変動学」、「情報社会を担うマイクロナノメカトロニクス」、「同位体が拓く未来」の5件、平成16年度に「計算科学フロンティア」の1件が文部科学省21世紀COEプログラムに採択され、これらの研究成果が大学院教育に反映されている。(名古屋)</p> <p>◎ 平成19年度に「プロジェクト型大学間交流連携ゼミの構築ー法学部連携によるカリキュラム多様化環境の生成ー」が文部科学省現代G Pに採択されている。(名古屋)</p> <p>◎ 平成19年度に「潜在的支援力を結集した支援メッシュの構築」が文部科学省新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムに採択されている。(名古屋)</p> <p>◎ 平成19年度に「システム生命科学の展開：生命機能の設計」、「分子機能物質科学の国際教育研究拠点形成」、「テキスト布置の解釈学的研究と教育」の3件が文部科学省グローバルCOEプログラムに採択されている。(名古屋)</p> <p>◎ 平成19年度に「臓器横断的がん診療を担う人材養成プラン」が文部科学省がんプロフェッショナル養成プランに採択されている。(名古屋)</p> <p>◎ 平成19年度に「法整備支援をデザインできる専門家の養成」、「国際協力型発信能力の育成」、「モノから生体をつなぐ物質科学者養成」、「学生プロジェクトを支援する数理科学教育」、「専攻横断型の包括的保健医療職の育成」の5件が文部科学省大学院教育改革支援プログラムに採択されている。(名古屋)</p> <p>◎ 平成19年度に「実務技能教育指導要綱作成プロジェクト」、「全国法曹キャリア支援プラットフォーム」の2件が文部科学省専門職大学院等教育推進プログラムに採択されている。(名古屋)</p>		
<p>◎ 平成17年度の文部科学省現代G Pに「外国人児童生徒のための教材開発と学習支援プログラム」が採択され、その取組を活かし、総合演習に外国人児童生徒教育を目的とした授業が開設されている。(愛知教育)</p>		
<p>◎ 平成16年度に「社会のニーズに即した人間性豊かな医師養成ー地域社会を学びの場にしてー」が、文部科学省特色G Pに採択され、地域社会を学びの場とした取組が行われている。(三重)</p> <p>◎ 平成18年度に「海外医学部と連携した臨床医学教育ー世界に通用する臨床医学教育と国際社会で活躍する人材の育成を目指してー」が、文部科学省特色G Pに採択され、世界と地域で活躍する医師の育成を目指している。(三重)</p> <p>◎ 平成16年度に「全学的な知的財産創出プログラムの展開」が、文部科学省現代G Pに採択され、全学生の知財マインドの高揚を図る取組が行われている。(三重)</p> <p>◎ 平成18年度に「教育実践力の育成と学校・地域の活性化ー中学校区全域との連携による学校・地域活性化モデル及び幼小中大連携モデルの構築ー」が文部科学省現代G Pに採択され、教育学部に隣接する学校園と教育学部が連携協力することによって、教員を目指す学生の教職者への動機付けを図る取組を行っている。(三重)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 平成15年度に「外国語教育の再構造化―自学習型型CALLと国際的人材育成」、平成16年度に「相互研修型FDの組織化による教育改善」が文部科学省特色GPに採択され、対面型授業のクラスサイズの適正化や自主的な相互研修型FD活動を全学レベルで組織化する取組が実施されている。(京都)</p> <p>◎ 平成17年度に「新しい蘇生教育の広域展開」が文部科学省現代GPに採択され、蘇生医学の知識と技術を学生にも普及させる取組が実施されている。(京都)</p> <p>◎ 平成18年度に「国際交流ホスピタリティプロジェクト―北米伝統大学との医学教育交換プロジェクト」が文部科学省大学教育の国際化推進プログラム海外先進教育実践支援に採択され、英語教育やコミュニケーションを充実させて、真の意味のホスピタリティの文化を形成することを目指した取組が実施されている。(京都)</p> <p>◎ 平成18年度に「先端医療の育・創薬を先導する薬剤師養成」が文部科学省地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラムに採択され、高度・先端医療に対する先導的役割を担う実践及び学術能力を有する薬剤師の養成を目指した取組が実施されている。(京都)</p> <p>◎ 平成16年度に「国際連携による地球・環境科学教育―アジア地域の大学との同時進行型連携講義の構築と実践―」が文部科学省現代GPに採択され、国際感覚豊かで実践的英語能力を持つ学生の輩出を目指した取組が実施されている。(京都)</p> <p>◎ 平成17年度に「理論・実践融合型による教育学の研究者養成」、「学際的エネルギー科学研究者養成プログラム」、「社会との協創による情報システムデザイン」、「化学教育トリニティ」、「横断的系統的医学研究キャリアパス形成」、「生命・化学情報に基づく融合創薬研究者養成」の6件、平成18年度に「臨床教育研究による実践的地域研究者の養成」、「シミュレーション科学を支える高度人材育成」、「生命科学キャリアディベロップメント」の3件が文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業に採択された。</p> <p>このうち、平成17年度に採択された6件の事業については、平成19年10月に公表された「魅力ある大学院教育」イニシアティブ委員会による事後評価において、3事業は「目的は十分に達成された」、2事業は「目的はほぼ達成された」、1事業は「目的はある程度達成された」との評価を受け、平成18年度に採択された3件の事業では、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見し、地域住民やNGO、国際機関などの諸アクターと協働して、課題への実践的な回答を究明してゆく資質を備えた研究者の育成を目指した取組、シミュレーション科学を支え、発展させ、世界をリードする人材の育成システムの構築に向けた取組及び学生の主体性と国際性の涵養を実現する大学院教育の確立に向けた取組が実施されている。(京都)</p> <p>◎ 平成16年度に「実務基礎教育の在り方に関する調査研究」、「実践的理論教育高度化プロジェクト」、「臨床研究者養成プログラム」の3件が文部科学省法科大学院等専門職大学院形成支援プログラムに採択されている。これらのプロジェクトを通じて、法律実務基礎科目の教育内容の明確化と充実、法曹に求められる実践的理論能力の涵養及び実践的理論能力の涵養及び臨床現場で生じた疑問に応えるための科学的な臨床研究の計画立案、実施、解析、結果の解釈などに関しカリキュラムの提供を目指した取組が実施されている。(京都)</p> <p>◎ 平成19年度に「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成」、「インテック・フュージョン型大学院工学教育」、「共通・分野別教育統合による医学研究者育成」の3件が文部科学省大学院教育改革支援プログラムに採択されている。(京都)</p> <p>◎ 平成19年度に「高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成」が文部科学省がんプロフェッショナル養成プランに採択されている。(京都)</p> <p>◎ 平成19年度に「実務科目等の内容の明確・標準化の調査研究」、「高度理論教育を目的とした教育改善の取組」の2件が文部科学省専門職大学院等教育推進プログラムに採択されている。(京都)</p>		
<p>◎ 平成17年度の文部科学省現代GPに「知財教育のできる教員養成システムの構築」が採択され、教養基礎科目の総合科目に「知的財産権入門」を開講して、知的財産教育を行うことができる教員の養成を目指している。(大阪教育)</p> <p>◎ 平成18年度の文部科学省現代GPに「地域連携学校教育のできる教員養成」が採択され、「地域連携学校教育関連科目群」を開講し、地域に愛着を持ち、地域に根ざした子どもを育成することのできる教員の養成を目指している。(大阪教育)</p> <p>◎ 平成17年度の文部科学省教員養成GPに「大学院における採用前教育プログラムの開発」が採択され、大阪府教育委員会との連携によって、新任教員に求められる実践的指導力向上のための新たなプログラムとして「授業づくり」「授業ケーススタディ」などの授業実践学の科目を開講している(天王寺キャンパス)。(大阪教育)</p> <p>◎ 平成17年度の文部科学省教員養成GPに「広域大学間連携による高度な教員研修の構築」(7大学共同教育プロジェクト)が採択され、教育の今日的課題を解決し得る力量を持った教員の育成に努めている。(大阪教育)</p> <p>◎ 平成19年度の文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラムに「大学と学校・教育委員会の連携による教員免許所持者のための即職力教育プログラム」が採択されている。(大阪教育)</p> <p>◎ 平成19年度の文部科学省専門職大学院等教育推進プログラムに「学校組織の危機対応教育プログラムの開発―大学・学校・教育委員会の連携による学校リスクマネジメントシステム構築をめざした教員の養成・研修プログラムの開発―」が採択されている。(大阪教育)</p>		
<p>◎ 平成17年度の文部科学省現代GPに「学生参加による不登校支援ネットワーク構築」が採択され、学生参加による不登校支援ネットワーク(NANAつくす)を立ち上げ、既存の教育実習では経験しにくいものの、実際に避けがたく起こる教育問題に向き合う力を育成するために、兵庫県内の不登校児童、生徒たちの支援のためのボランティア活動に学生を参加させている。(兵庫教育)</p> <p>◎ 平成17年度の文部科学省教員養成GPに「大学と教育現場の協働的教師教育プログラム」が採択され、大学と教育現場の協働によるカリキュラムとシラバス等の開発、兵庫教育大学大学院教育実践人材・フィールドデータバンクの構築等が行われた。(兵庫教育)</p> <p>◎ 平成19年度の文部科学省専門職大学院等教育推進プログラムに「専門性の高い特別支援教育における教員養成」が、また、同年度の文部科学省大学院教育改革支援プログラムに「学校教育実践学研究者・指導者の育成」が、それぞれ採択されている。(兵庫教育)</p>		
<p>◎ 平成17年度から交付の特別教育研究経費「女性のためのキャリア教育プログラム開発推進事業」の一環として、女子学生4年一貫キャリア教育を実施している。(奈良女子)</p> <p>◎ 文部科学省現代GPに「地域の変革を促す女性人材育成プログラム―歴史的市街地に立地する大学を地域社会変革の拠点とする―(平成17年度)及び「可視化コンテンツクリエイティブ養成プログラム」(平成18年度)が採択され、社会的要請に基づいたテーマについての教育活動が行われている。(奈良女子)</p> <p>◎ 博士後期課程の社会生活環境学専攻と複合現象科学専攻で文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブの「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」(平成17年度採択)及び「先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成」(平成18年度採択)が進行するなど、女性高度専門職業人や研究者など人材育成に対応する取組が積極的に行われている。(奈良女子)</p> <p>◎ 平成19年度に「古都奈良における生活観光―地域資源を活用した全学的教育プログラム―」が文部科学省現代GPに採択されている。(奈良女子)</p>		
<p>◎ 文部科学省大学教育の国際化推進プログラム事業などにより、実践力を重視した特色ある教育改善に取り組んでいる。(鳥取)</p> <p>◎ 平成14年度に「乾燥地科学プログラム」、平成16年度には「染色体工学技術開発の拠点形成」が文部科学省21世紀COEプログラムに採択され、研究から得られた成果を授業に活用している。(鳥取)</p> <p>◎ 国連・国際機関等への貢献によって、世界に通用する人材の育成を目指し、平成19年度にグローバルCOEプログラム「乾燥地科学拠点の世界展開」が採択されている。(鳥取)</p> <p>◎ 平成15年度に「アウエアネスを持った学生づくり教育」が文部科学省特色GPに採択され、教育改善に取り組んでいる。(鳥取)</p> <p>◎ 平成16年度に「大学間連携によるフィールド教育体系の構築―中国・四国地域の農学系学部をモデルとして―(基幹校は広島大学)が、文部科学省現代GPに採択され、中国・四国地方の農学部系学部において自大学にはない分野を相互に履修できる取組を実施している。(鳥取)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 文部科学省特色G Pにおいて、平成16年度に「日本語力の徹底訓練による発想型技術者育成」が採択され、「読む、書く、話す」ことでの指導を行っている。(岡山)</p> <p>◎ 文部科学省教員養成G Pにおいて、平成18年度に「大学コンソーシアムによる幼稚園教員の養成—地域社会に密着した子育て支援と幼保一元化への対応—」が採択され、教員養成カリキュラムの充実、学生間交流による主体的成長の促進、地域に密着した子育て支援推進と拠点化に取り組んでいる。(岡山)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成16年度に「バイオ人材教育による地域活性化方策—地域産業と連携した教育プログラムの立案と実践—」及び「大学間連携によるフィールド教育体系の構築 —中国・四国地域の農学系学部をモデルとして—」(広島大学が基幹校)が採択され、バイオインフォマティクスに関する新たなカリキュラムの展開及び中国・四国地方の農学系学部での相互に履修する取組を行っている。(岡山)</p> <p>◎ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブにおいて、平成17年度に「『いのち』をまもる環境学教育」、平成18年度に「先端基礎科学開拓研究者育成プログラム」が採択され、海外研修などの機会を設け国連機関など国際的に活躍できる環境の専門家の育成を目指す取組、及び現場体験型教育による技術開拓者育成と現代の先端科学水準を更に切り開く自立型開拓研究者育成の取組を行っている。(岡山)</p> <p>◎ 文部科学省法科大学院等専門職大学院形成支援プログラムにおいて、平成16年度に「実務技能教育教材共同開発共有プロジェクト」(共同プロジェクト)及び「医療・福祉に特化した地域連携型法曹教育—多角連携型医療福祉ネットワークセミナーによる実践的教育システムの構築—」が採択され、新しい専門家育成理論の開発、専門技能を教育できる人材の育成、映像教材の開発・蓄積などを行い、その成果を多様な形態の教材としてまとめ、プロジェクト参加校間で共有するデータベースの構築、及び医療・福祉に特化した地域連携型法曹教育の活動母体として「医療・福祉リーガルリスク予防研究センター」の設立を行っている。(岡山)</p> <p>◎ 文部科学省特色G Pにおいて、平成19年度に「医学における知の創生現場実体験プログラム—指導的医療人育成のための医学研究インターンシップ—」が採択されている。(岡山)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成19年度に「暗れの国より巣立つ水環境スペシャリスト—地域資源「児島湖」をモデルに持続性の高い環境社会の構築を迫る実践型環境教育プログラム—」が採択されている。(岡山)</p> <p>◎ 文部科学省大学院教育改革支援プログラムにおいて、平成19年度に「ユニット教育による国際保健実践の人材育成」及び「医療系大学院高度臨床専門医養成コース」が採択されている。(岡山)</p> <p>◎ 文部科学省がんプロフェッショナル養成プランにおいて、平成19年度に「中国・四国広域がんプロ養成プログラム—チーム医療を担うがん専門医療人の育成—」(共同プロジェクト)が採択されている。(岡山)</p> <p>◎ 文部科学省専門職大学院等教育推進プログラムにおいて、平成19年度に「実務技能教育指導要綱作成プロジェクト」(共同プロジェクト)、「医療・福祉分野での地域連携法曹教育の確立—医療・福祉の分野に特化した専門家ネットワークと附設法律事務所を活用した法曹教育システムの確立・充実と教材開発—」及び「真に課題解決能力を育てるカリキュラム開発—地域協働学校と教職大学院のコラボレーション—」が採択されている。(岡山)</p>		
<p>◎ 教員の実践的指導力の育成を熱心に進めており、全国に先駆けて教員養成コア・カリキュラム(鳴門プラン)を開発し、その成果は、「教育実践の省察力をもつ教員養成—教育実践力自己開発・評価システムを組み込んだ教員養成コア・カリキュラムの展開を通して—」として、平成18年度の文部科学省特色G Pの採択につながっており、また、学士課程の教育の充実に資している。(鳴門教育)</p> <p>◎ 平成19年度の文部科学省現代G Pに「遍路文化を活かした地域人間力の育成—歩き遍路による「いたわり」情操教育と遍路地域の「まるごと博物館」構想—」が採択されている。(鳴門教育)</p> <p>◎ 平成19年度の文部科学省専門職大学院等教育推進プログラムに「教育の専門職養成のためのコア・カリキュラム—地域との連携を通して院生の授業力向上をはかる大学院改革—」が採択されている。(鳴門教育)</p>		
<p>◎ 中国・四国地区の国公立大学が連携して実施する取組「大学間連携によるフィールド教育体系の構築」(申請大学：広島大学)が平成16年度文部科学省現代G Pに採択され、農学部学生は各大学の施設を利用して複数大学の教員により行われるフィールド演習を履修することができる。(愛媛)</p> <p>◎ 環境教育指導者養成講座「瀬戸内の山〜海〜人がつながる環境教育」が平成18年度文部科学省現代G Pに採択され、大学がN P Oなど地域と交流しながら進行する相互学びあい型カリキュラムにより、理論と実践(フィールド調査や受講生企画による公開講座の開催など)を組み合わせている。(愛媛)</p> <p>◎ 学校現場において学習や行動に困難を示す児童生徒への対応のために、現職教員を主たる対象とし、軽度発達障害支援の専門家養成を目的とする1年制の修士課程である特別支援教育コーディネーター専修を開設した。「1年制大学院が地域の特別支援教育を変える」は平成18年度文部科学省教員養成G Pに採択されている。(愛媛)</p> <p>◎ セミナールや合宿研修等により学生の統率力や指導力、コミュニケーション能力を養う取組である「新時代の学生リーダー養成プログラム」が、平成19年度文部科学省学生支援G Pに採択されている。(愛媛)</p>		
<p>◎ 平成16年度文部科学省現代G Pに採択された「課題探求能力育成型インターンシップの開発—コラボレーション型インターンシップ(C B I)授業システムの全学導入—」において、企業との密接な協力関係の下、きめ細かい学生指導が実施されている。(高知)</p> <p>◎ 平成19年度に「コラボ考房と2つの道場が育む自律型人材」が文部科学省学生支援G Pに採択され、自発的な活動の場の提供及び、教員と社会人による教育的支援を行う「準正課システム」の構築を進めている。(高知)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 平成15年度に「21世紀プログラム」が文部科学省特色G Pに採択され、幅広い視野を持ち問題発見・課題設定とその解決能力に優れた専門性の高いゼネラリストの育成を目指している。また、平成16年度には、複数の大学で採択されている「コアリッションによる工学教育の相乗的改革」に参画している。(九州)</p> <p>◎ 平成16年度に「WBT(Web Based Training)」が文部科学省現代G Pに採択され、医学部・歯学部・薬学部でのWebCTを活用したe-Learningシステムを開発し、多様な学習機会を提供している。(九州)</p> <p>◎ 平成14年度に「統合生命科学」、「分子情報科学の機能イノベーション」、「システム情報科学での社会基盤システム形成」、「東アジアと日本：交流と変容」の4件、平成15年度に「大規模コホートに基づく生活習慣病研究教育」、「機能数理学の構築と展開」、「循環型住空間システムの構築」、「水素利用機械システムの統合技術」、「感覚特性に基づく人工環境デザイン研究拠点」の5件が文部科学省21世紀COEプログラムに採択され、これらの研究成果が大学院教育に反映している。(九州)</p> <p>◎ 平成17年度に「フロントリサーチャー育成プログラム」、「ものづくり型実践的研究人材の戦略的育成」、「歯学国際リーダーの養成プログラム」の3件、平成18年度に「英語による法学博士課程教育の充実化」、「世界戦略的フードサイエンス教育」、「臨床研究活性化のための大学院教育改革」の3件が文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業に採択され、大学院教育改革に積極的に取り組んでいる。(九州)</p> <p>◎ 平成16年度に「九州三大学連携法曹養成プロジェクト」、「裁判と法実務の国際的体験研修プログラム」、「アジアビジネス教育国際連携拠点形成」、「医療経営・管理学夜間・土日講座『社会人実務家コース』の実施」の4件が文部科学省法科大学院等専門職大学院形成支援プログラムに採択されている。また、平成18年度に「MOT協議会における教育推進プログラム」、「医療経営・管理学ケース教材開発・実証事業」の2件が文部科学省法科大学院等専門職大学院教育推進プログラムに採択されている。これらのプロジェクトを通して、専門職大学院の教育改革に積極的に取り組んでいる。(九州)</p> <p>◎ 平成18年度に「ブロック・モジュールによる英語コース改革—欧米とアジアを見据えたアジア農学プログラムのグランド・デザイン—」、平成19年度に「若手職員の国際教育能力育成プログラム」の2件が文部科学省海外先進教育実践支援に採択され、国際教育能力の育成及び改革に努めている。(九州)</p> <p>◎ 平成19年度に「地域環境・農業活用による大学教育の活性化—ネットワーク型農学校が大地と地域社会の未来像を創造する—」、「医療コンテンツプロデューサー育成事業」、「間違いない探しを基盤とする洞察力育成医療教育」の3件が文部科学省現代G P採択されている。(九州)</p> <p>◎ 平成19年度に「個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻」、「未来分子システム科学」の2件が文部科学省グローバルCOEプログラムに採択されている。(九州)</p> <p>◎ 平成19年度に「クラスターによる最先端法医学修士課程の構築」、「先端研究者と高度専門教育の理学教育」、「産業技術が求める数学博士と新修士養成」の3件が文部科学省大学院教育改革支援プログラムに採択されている。(九州)</p> <p>◎ 平成19年度に「対人援助職を対象とした専門性を高めるためのスキルアッププログラム」、「ポストR&amp;D創成能力向上の為の実践的統合教育プログラムの開発」の2件が文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラムに採択されている。(九州)</p> <p>◎ 平成19年度に「女性医療人きらめきプロジェクト—魅力ある職場での生涯現役をめざして—」、「良質な医師主導臨床試験支援人材の育成—日本人のためのエビデンス構築の基盤整備—」の2件が文部科学省地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラムに採択されている。(九州)</p>		
<p>◎ 文部科学省特色G Pに、平成15年度に「特色ある初年次教育の実践と改善—教育マネジメントサイクルの構築—」、「ものづくりを支える工学力教育の拠点形成—創造性豊かな技術者を志す学生の連携による教育プログラム—」、平成16年度に「地域と連携した実践型医学教育プログラム—現代版「赤ひげ」の育成を目指した長崎県五島列島における包括的保健・全人的医療教育の実践—」が採択され、初年次教育に対する教育マネジメントサイクルモデルの創生及び実践、工学教育の体制整備及び実践、離島医療に対する関心の向上などの取組が行われている。(長崎)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pに、平成18年度に「現代『出島』発の国際人育成と長崎蘭学事始」、「健全な社会を支える技術者の育成」が採択され、学生の異文化理解、国際理解の促進、学生の安全なものづくりとキャリアに関する意識の向上が図られている。(長崎)</p> <p>◎ 文部科学省21世紀COEプログラムに、「放射線医療科学国際コンソーシアム」、「熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点」が採択され、合同研究の中で、学生の派遣制度やe-learningを利用した教育が推進されている。(長崎)</p> <p>◎ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに、平成17年度に「海洋環境・資源の回復に寄与する研究者養成」、「国際的感染症研究者・専門医養成プログラム」が採択され、日中韓学生・教員の国際共同調査実習等、国際的に活躍できる人材育成の教育プログラムの構築が行われている。(長崎)</p> <p>◎ 文部科学省教員養成G Pに、平成18年度に「出会い、研鑽、臨床で育む高度な支援力」が採択され、高度な実践力を発揮できる教員の養成を目指したカリキュラムを取り入れている。(長崎)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pに、平成19年度に「PATプログラムによる地域共生力の育成—学校発！学生の学びを活かした心の過疎化地域の活性化—」が採択されている。(長崎)</p> <p>◎ 文部科学省がんプロフェッショナル養成プランに、平成19年度に九州大学等と共同で申請した「九州がんプロフェッショナル養成プラン」が採択されている。(長崎)</p> <p>◎ 文部科学省グローバルCOEプログラムに、「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」が採択されている。(長崎)</p>		
<p>◎ 文部科学省21世紀COEプログラム(プログラム名:生理活性ペプチドと生体システムの制御)を活用し、農学・医学分野の大学院生が共同研究を行うなどの生命科学分野における有機的な連携が行われている。(宮崎)</p> <p>◎ 平成17年度に文部科学省教員養成G Pに採択された「教師教育支援モデルの構築と展開—地域との連携による「教員養成と研修支援」の協働・共有プロジェクト—」を活用し、学生がプログラムに参加することによる、教育現場でのフィールド型の演習が行われている。(宮崎)</p> <p>◎ 平成18年度に文部科学省医療人G Pに採択された「産婦人科医小児科医が連携した医師養成P G—社会的ニーズに応える産婦人科医・小児科医の増加を目指すプログラムの構築—」では、大学の指導医と地域医療機関の指導医が同じ教育目標と一定の医療レベルを維持できるようにプログラムを推進している。(宮崎)</p> <p>◎ 平成17年度に文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択された「自然エネルギー変換技術研究者の養成」では、研究者の教育に工夫がなされている。(宮崎)</p> <p>◎ 平成18年度に文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択された「臨床研究と展開医療を融合する教育拠点(発見から臨床展開まで実体験できる研究者育成プロジェクト)」では、幅広い臨床研究を大学院教育の中で組織的に学習できるプログラムの導入などが推進されている。(宮崎)</p>		



基準Ⅱ 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点	
<p>◎ 文部科学省特色G P「ISOを活用した教育システムの展開」(水産学部、平成17年度採択)は、全国で初の学部単位で取得したISO9001認証であり、学生の満足と教育の継続的改善をシステム化したもので、学生の授業への参加意欲向上に寄与している。(鹿児島)</p> <p>◎ 文部科学省特色G P「鹿児島の中に世界をみる教養科目群の構築」(教育センター、平成18年度採択)は、多島圏研究センター等の地域研究の成果を学生たちに伝えるため、教養教育科目の中に「鹿児島探訪」という一連の科目を講義シリーズ、体験シリーズに分けて学生に提供し、学生の関心を地域へと向ける試みである。(鹿児島)</p> <p>◎ 文部科学省現代G P「地域マスコミと連携した総合的キャリア教育ー地方の視点から問題発見・解決と提言を行なう人材の育成ー」(法文学部、平成18年度)は、地域のマスコミ13社と連携して「マスコミ論」等の授業を展開し、地方からの視点による情報分析、自己表現力の伸張、キャリアビジョンの形成を企図しており、キャリア教育の充実に貢献している。(鹿児島)</p> <p>◎ 文部科学省医療人G P「離島へき地医療を志す医師教育支援ー双方向・多元的情報網を活用した先進的医療人教育プログラムー」(医学部・歯学部附属病院、平成17年度採択)は、その取組の成果を離島医療教育として学生に還元しており、平成19年度より6年次医学部医学科の学生全員が離島医療実習を行うこととなっている。(鹿児島)</p> <p>◎ 文部科学省医療人G P「離島へき地医療を支える総合小児科医養成ー総合小児科医と新たな小児医療参画医が離島へき地小児医療の質を変えるー」(医学部・歯学部附属病院、平成18年度採択)は、医学生に離島における小児医療現場を体験させるカリキュラム、総合小児科医養成に特化した卒業臨床研修プログラム「桜島」などを実施して、鹿児島県の離島へき地における深刻な小児科医不足の解決に向けて取り組んでいる。(鹿児島)</p> <p>◎ 文部科学省の専門職大学院等教育推進プログラムのテーマ「大学等における教員養成の充実」において、「生きる教師力を育む特別支援学校教員養成(オンラインポर्टフォリオによる理論・実践の調和と個別の学修プログラムの構築)」(鹿児島大学・琉球大学共同取組)が、平成19年度に採択されている。(鹿児島)</p> <p>◎ 4大学(九州大学・熊本大学・鹿児島大学・琉球大学)が連携して行っている遠隔講義システムが、文部科学省の専門職大学院等教育推進プログラムのテーマ「法科大学院における教育方法・内容の開発・充実」における「九州・沖縄連携実習教育高度化プロジェクトー大学を超えた協働と競争による新たなシナジーを目指してー」(平成19年度採択:九州大学・熊本大学・鹿児島大学・琉球大学の4大学共同取組)に利用されている。(鹿児島)</p> <p>◎ 文部科学省の専門職大学院等教育推進プログラムのテーマ「法科大学院における教育方法・内容の開発・充実」において「実務技能教育指導要綱作成プロジェクト」(名古屋大学他15大学共同取組)が、平成19年度に採択されている。(鹿児島)</p>			
<p>◎ 平成18年度の文部科学省現代G Pに「実践的スポーツ指導者教育プログラムーインターン活動を包括的に支えるe-Learningプログラムー」が採択され、コンテンツの開発が行われ、学生のインターンシップの充実や自主的学習への支援が進められている。(鹿児島体育)</p>			
<p>◎ 平成17年度に「総合日本文化研究実践教育プログラム」が文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業に採択され、文化科学研究科各専攻の学問諸分野における先導的で国際的に活用できる高度な専門的知識及び能力を学生に修得させるとともに、日本文化研究を中核とする関連諸分野と有機的に連動できる創造性豊かで優れた専門応用能力を有し、新しい日本文化研究へのチャレンジ精神を備えた若手研究者の育成を目指した取組が実施されている。(総合研究)</p> <p>◎ 平成19年度に「全教員参加型博士課程教育の構築」が文部科学省大学院教育改革支援プログラムに採択されている。(総合研究)</p>			
<p>◎ 文部科学省21世紀COEプログラムに平成15年度1件、平成16年度1件が採択されており、学際・文理融合領域において、知識創造プロセスをコーディネートできる「知のコーディネータ」育成を目的に、3研究科にまたがる分野横断型教育コースとして統合科学技術コースを設置しているほか、安心電子社会の構築を行うことのできる研究者や博士レベル高級技術者の育成を目的に、検証技術や高信頼情報システム関連講義の充実、連携講座の開設を行っている。(北陸先端)</p> <p>◎ 平成17年度に「ナノマテリアル研究者の自立支援型育成」が文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択されており、博士前期課程においては「問題解決能力」の備わった人材を育成するために、主分野・副分野専門教育、スキル教育、マネジメント教育を導入している。また、博士後期課程においては「問題発見能力」の備わった人材を育成するために、自立研究制度、学外副テーマ研究制度、社会人学位取得制度を導入している。(北陸先端)</p> <p>◎ 平成17年度に「バイリンガル環境における科学技術英語教育」が文部科学省現代G Pに採択されており、英語プレゼンテーション及び英語科学技術論文作成に関するチュータリングサービスの実施、英語インタラクションゼミによる能動的なアピール方法の指導、「大学院における徹底した実践的科学技術英語教育」を行うクラスワーク、及びユビキタスLL環境による自主学習体制の整備を行っている。(北陸先端)</p> <p>◎ 平成19年度に「グループワークによる知識創造教育(多様性を活かす大学院教育に向けて)」、「ナノマテリアル研究リーダーの組織的育成(キャリア対応型協業教育プラン)」が文部科学省大学院教育改革支援プログラムに採択されている。(北陸先端)</p>			
<p>◎ 当該大学を含む28大学・短期大学が加盟している首都圏西部大学単位互換協会による「大学間連携による教養教育への総合的な取組」が、平成16年度文部科学省現代G Pに採択されている。(大妻女子)</p>			
<p>平成20</p>	<p>◎ 平成17年度には、「授業改革と地域連携の相乗的な質的向上施策ー授業内容・方法の改善と地域教育界との連携協力とが相互作用することによって、教育学部・教育学研究科の体質改善と地域教育の活性化を図るー」が文部科学省の教員養成G Pに採択され、スクールサポートセンターを設置し、継続的に活動を展開している。(宇都宮)</p>		
<p>◎ 平成16年度には、食品流通の総合的安全管理システムに係わる技術者養成のための「食品流通の安全管理教育プログラムの開発」が文部科学省現代G Pに採択され、その成果は教育方法に多くの影響を与えている。(東京海洋)</p> <p>◎ 文部科学省現代G P「食品流通の安全管理教育プログラムの開発」の成果を発展・充実すべく、大学院に食品流通安全管理専攻が平成19年度に設置されている。(東京海洋)</p> <p>◎ 平成17年度には、海運界への優秀な人材の提供、世界の船舶職員養成機関への貢献を目標に、「海事英語学習・評価プログラムの開発」が文部科学省現代G Pに採択され、海事英語検定試験の開発、データベースの構築等を推進している。(東京海洋)</p> <p>◎ 平成19年度には、水圏環境を総合的に理解し、その教育を推進できる人材の養成を目指した「水圏環境リテラシー教育推進プログラム」が、文部科学省現代G Pに採択され、目標へ向けて実践を進めている。(東京海洋)</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに、フィールド研究の意義を認識させ国際共同調査等の現場にも即応できる乗船技術者・研究者の養成を目指す「海洋観測・生物資源調査の実践教育強化」が採択され、多彩な計画を進めている。(東京海洋)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」に、従来型の大学院教育に実務対応型の教育プログラムを融合することを目指した「研究・実務融合による食の高度職業人養成」が採択され、また、文部科学省特別教育研究経費(教育改革)の「海産食品の安全・安心」に関する実践的教育研究の形成に基づいて、社会のニーズに応え得る高度専門職業人の育成を目指している。(東京海洋)</p>			

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 文部科学省特色G Pにおいて、平成19年度に「新たな工学的感性を養う教育プログラム」が採択され、「科学と芸術」を中心とした教育を行っている。(京都工業繊維)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成18年度に「創造性豊かな国際的工科学専門技術者の育成」が採択され、異なる分野の学生、日本人学生と留学生という背景の異なる学生群を対象に、京都の日本伝統工芸の工房において異文化、異分野の融合を体験させる学習を行っている。(京都工業繊維)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成19年度に「京都ブランドによる人材育成と地域創成」が採択され、「京都ブランド創生」という、京都府・市・商工会議所後援の市民開放型全学共通講義を行っている。(京都工業繊維)</p>		
<p>◎ 文部科学省特色G Pにおいて、平成19年度に「協働の知を創造する体系的I P W教育の展開－多職種医療人による協働を基盤にしたカリキュラムの開発－」が採択され、現代の医療問題に対応できるチーム医療を念頭に置いた、新たなI P W (多職種医療人協働) のカリキュラム開発を行っている。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成16年度に「地域歴史遺産の活用を図る地域リーダーの養成」の1件、平成17年度に「震災教育システムの開発と普及－阪神淡路大震災の経験を活かして－」及び「P E P コース導入による先進的英語教育改革：総合大学におけるプロフェッショナル・イングリッシュ・プレゼンテーション能力育成プログラムの開発」の2件、平成19年度に「アートマネジメント教育による都市文化再生－阪神地域の文化・芸術復興を目指す教育カリキュラムの開発－」及び「アクション・リサーチ型E S Dの開発と推進－学部連携によるフィールドを共有した環境教育の創出－」の2件が採択され、学士課程の教育に効果を上げている。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム」において、平成17年度に「総合病床でのクリニシャンエデュケーター養成」が採択され、総合病床(教育病床)の設置により、初期研修として幅広い内科系疾患の診療の場を提供している。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省教員養成G Pにおいて、平成18年度に「地域文化を担う地歴科高校教員の養成－我が国の人文科学分野の振興に資する国立大学と公立高校の連携プロジェクト－」が採択され、高等学校教員による授業を補佐しながら教材活用する方法を学ぶ取組等を行っている。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブにおいて、平成17年度に「国際水準に挑む次世代政治学研究者養成計画」、「教育組織と手法のRe-bundling(共同研究を軸とする経済学の先端教育)」、「経営学研究者養成の先進的教育システム」、「国際交流と地域連携を結合した人文学教育」、「国際政策学研究者養成に向けた大学院教育」及び「生命医科学リサーチリーダー育成プログラム」の6件が採択され、大学院課程の教育改革に積極的に取り組んでいる。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省大学院G Pにおいて、平成19年度に「文化情報リテラシーを駆使する専門家の養成」、「正課外活動の充実による大学院教育の実質化」、「経営学研究者の先進的養成プログラム」、「大学連合による計算科学の最先端人材育成」及び「拠点融合型プロフェッショナル臨床医教育」の5件が採択され、大学院課程の教育改革に積極的に取り組んでいる。また、平成20年度に「古典力と対話力を核とする人文学教育」及び「アジアにおける双方型保健学教育の実践」の2件が採択されている。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」において、平成19年度に「医療用デバイス開発コーディネーター人材育成プログラム(共同プロジェクト)」が採択され、先端医療と医療デバイス関連の法律の講義と実務演習を行っている。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」において、平成19年度に「6大学連携オンコロジーチーム養成プラン－近畿圏のがん医療水準の向上と均てん化を目指した国公立大連携プロジェクト(共同プロジェクト)」が採択され、共通特論を含む共通の教育プログラム(単位互換)を実施している。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」において、平成19年度に「先進的C R E S Pによる臨床研究教育の改革－神戸ローカル医療クラスターにおけるクリニカル・リサーチ・エキスパート特修プログラム(C R E S P)の開発－」が採択され、学内外の専門家によるオムニバス形式の講義、医学科学生海外派遣事業及び資格や職種に応じた専門性の高い短期集中セミナー等を行っている。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」において、平成16年度に「教育高度化推進プログラム 実務基礎教育の在り方に関する調査研究(共同プロジェクト)」及び「教育高度化推進プログラム プロジェクト方式によるMBA教育の高度化」の2件が採択され、専門職学位課程の教育改革に積極的に取り組んでいる。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省「法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム」において、平成18年度に「大学と企業における経営教育の相乗的高度化－B－Cスクール連携の仕組みづくりと高度専門職教材の開発－」が採択され、MBA卒業生が学生の研究論文作成に経験に基づく実践的なアドバイスをを行う仕組みの構築等の取組を行っている。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」において、平成19年度に「実務科目等の内容の明確・標準化の調査研究(共同プロジェクト)」及び「総合法律教育に関する手法と教材の開発－法領域横断的な複合問題に対応できる法曹の養成－」の2件が採択され、専門職学位課程の教育改革に積極的に取り組んでいる。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省21世紀C O Eプログラムにおいて、平成14年度に「蛋白質のシグナル伝達機能」の1件、平成15年度に「市場化社会の法動態学」(C D A M S)、「糖尿病をモデルとしたシグナル伝達病拠点」、「惑星系の起源と進化」、「安全と共生のための都市空間デザイン戦略」、「新しい日本型経済パラダイムの研究教育拠点」及び「先端ビジネスシステムの研究開発教育拠点」の6件が採択されており、これらの研究成果を大学院課程の教育に活かしている。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省グローバルC O Eプログラムにおいて、平成19年度に「統合的膜生物学の国際教育研究拠点」が採択されたことに伴い、医学研究科、理学研究科、農学研究科、工学研究科の部局・専攻横断型の「膜生物学リサーチリーダー育成コース」を開設し、膜生物学の分野で創造性と国際活動能力を有する若手研究者の育成を目指している。また、平成20年度に「次世代シグナル伝達医学の教育研究国際拠点」及び「惑星科学国際教育研究拠点の構築」が採択されている。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省学生支援G Pにおいて、平成20年度に「地域に根ざしに学ぶ共生的人間力」が採択されている。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省教育G Pにおいて、平成20年度に「21世紀型市民としての法学士育成計画」及び「食農コープ教育による実践型人材の育成」が採択されている。(神戸)</p> <p>◎ 文部科学省「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」において、平成20年度に「産学連携によるMBAプログラムの高度化」及び「法科大学院コア・カリキュラムの調査研究(共同プロジェクト)」の2件が採択されている。(神戸)</p>		
<p>◎ 平成16年度に文部科学省現代G Pに採択された「国際的通用性のある人材育成を目指して－英語力の抜本的向上のための教育実践－」は、英語・ビジネス学習機会の提供、海外大学とのビジネスカリキュラムの共同開発及び独自英語教材開発などにより、英語力の向上につなげている。(国際教養)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 平成17年度に文部科学省現代G Pに採択された生活科学部の「QOLプロモーター育成による地域活性化」では、福祉や環境、まちづくりに関する地域貢献型授業を、参加型や双方向型、臨地演習等、様々な形態で実施しQOLプロモーターの育成に貢献しており、さらに、全学科がこの取組に参加することで、分野間の交流も図られている。(大阪市立)</p> <p>◎ 平成19年度の文部科学省現代G Pに採択された、商学部の「インタラクティブ型キャリア教育方法の確立」では、学部理念である「考える実学」を発展させるべくキャリアデザイン論やプロジェクト・セミナー等の特別授業を展開し学生が自ら問題や課題を発見し、解決する能力を高める教育方法の開発を進めている。(大阪市立)</p> <p>◎ 平成19年度に文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」に採択された文学研究科の「国際発信力育成インターナショナルスクール」では、大学院学生の研究成果の国際発信能力の育成のためIS集中科目での英語による研究発表の機会の創出、口頭発表のためのトレーニングプログラム等を実施するとともに、平成20年度には英語によるアカデミック・ライティングや口頭発表の能力の育成を目標としたAC演習を博士前期課程の共通科目として開設し、大学院教育の実質化に向けた授業を展開している。(大阪市立)</p> <p>◎ 平成19年度に文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」に採択された生活科学研究科の「地域ケアを担うPh.D.臨床栄養士の養成 一病院と地域をつなぐ管理栄養士のエキスパート教育プログラム」では、管理栄養士を栄養学の専門家として充分な専門栄養学、臨床医学から社会福祉学、臨床心理学、居住環境学など、地域ケアにまつわる幅広い知識を習得させるとともに、大学附属病院での臨床インターン研修や、地域ケアのフィールドで実践的な栄養ケアマネジメント研修により、博士学位を有し、科学的思考のできる地域ケアを担う臨床栄養士の養成を推進している。(大阪市立)</p> <p>◎ 平成16年度の文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に採択された「中小企業法臨床教育システム」では、中小企業が抱える多様な法的ニーズに総合的に対応できる法曹の養成という目的を実現させるため大阪市立大学中小企業支援法律センターを開設し、実態調査や無料法律相談業務などを実施し、法実務を学ばせる様々な取組を展開している。(大阪市立)</p> <p>◎ 平成14年度に「都市文化創造のための人文科学的研究」、平成15年度に「結び目を焦点とする広角の数学拠点の形成」、平成16年度に「疲労克服研究教育拠点の形成」が文部科学省21世紀COEプログラムに採択されている、また、平成19年度の文部科学省グローバルCOEプログラムに「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」が採択され、これらの研究成果が大学院教育に反映されている。(大阪市立)</p>		
<p>◎ 平成16年度に文部科学省特色G Pに「到達目標を共有する教育プログラムの取組」が採択され、支援期間終了後も、就職を目前に控えた学生に対し、看護基本技術の修得度を高め、不安・緊張を軽減して、専門職として臨床の実践現場に入る準備を整え初期の対応を支援するなどの取組を継続している。(富崎県立看護)</p>		
<p>◎ 平成18年度文部科学省「法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム」に「コラボレーション型実践教育システムの構築ー課題解決型福祉実践能力の開発ー」が採択され、学生の主体的課題解決能力を涵養するため、ポートフォリオ方式の学習計画づくりを導入するとともに、大学、大学院生及び社会福祉施設・組織の現場担当者の三者連携の下で、実地に即して実践能力の研鑽を図った。(日本社会事業)</p>		
<p><b>平成21</b></p> <p>◎ 文部科学省教育G Pに平成20年度に採択された「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」では、エコキャンパスの教育基盤を活用して「大学博物館講座ー北大自然史研究の系譜」、「北大総合博物館で学ぼう！自然と人間」、「大学博物館展示解説プログラム」等を開講し、体験型全人教育を全学的に展開している。(北海道)</p> <p>◎ 文部科学省特色G Pに平成15年度に「進化するコアカリキュラム」、平成16年度には「国際獣医学教育協力を推進プログラム」が採択され、それぞれの目的に沿った教育が実施され、支援期間終了後も継続的に展開されている。(北海道)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pに平成16年度に「北方地域人間環境科学教育プログラム」が採択され、また平成17年度に採択された酪農学園大学と連携してチュートリアル形式による臨床教育を実施した「北海道臨床獣医学先進教育プログラム」では、問題解決能力やコミュニケーション能力の向上につながっている。(北海道)</p> <p>◎ 文部科学省医療人G Pに平成17年度に「地域・大学循環型の専門医育成定着システムー病院重点化構想ー」が採択され、卒前教育、卒後臨床研修及び専門研修を大病院と地域センター病院を循環して行い、一般性と共に専門性を有する応用力のある医師を10年単位で育成している。(北海道)</p> <p>◎ 文部科学省大学院G Pに平成19年度に「人文科学における実証的研究者の育成拠点」、「バックグラウンド多様化を活かす大学院教育」、「多元的な資質伸長を促す学びの場の創成」の3件が採択され、また平成20年度に採択された「融合生命科学プロフェッショナルの育成」では、大学院融合生命科学教育と大学院キャリア教育のモデル事業として、修学支援システムの構築・運用、TA・RAの雇用、国内外学会発表支援事業、シンポジウムの主催及び共催、FD研修、博士後期課程学生向け長期インターンシップ等、様々な取組を行い、国際社会の様々な分野で幅広く活躍できる高度な人材の育成を目指している。(北海道)</p> <p>◎ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに平成17年度に採択された「学生主導型の研究マネジメント力養成」では、大学院教育の実質化を図るために、大学院生を自立した若手研究者とみなし、その自発的な諸活動を奨励することを通して、大学院生が研究過程を自力で運営・管理する能力、すなわち「研究マネジメント力」を涵養することを目的として、学生が運営するワークショップや研究会、シンポジウム等の活動を行っている。(北海道)</p> <p>◎ 文部科学省「戦略的連携支援事業」に平成20年度に採択された酪農学園大学、当該大学、帯広畜産大学と共同による取組「食の安全・安心の基盤としての地域拠点型教育研究システムのネットワーク形成」では、大学院生及び地域社会人を対象とした食の安全、安心に関する研究、教育活動を行っている。(北海道)</p> <p>◎ 文部科学省「産学連携による実践型人材育成事業」に平成17年度に採択された当該大学、室蘭工業大学、北見工業大学、筑波大学、奈良先端科学技術大学院大学、公立はこだて未来大学、慶應義塾大学と共同による取組「実システム開発指向高度人材育成プログラム」では、企業と協同して研究開発部門でのインターンシップを取り入れた新しい大学院教育カリキュラム及び学位認定を実施している。(北海道)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pに平成16年度に採択された「大学院・社会人教育支援e-カリキュラム」では、大学院特論科目のe-learning化を進め、社会人博士後期課程学生には単位取得型として、また、一般学生には閲覧のみの学修環境として開講している。(北海道)</p> <p>◎ 文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」に平成19年度に採択された「法学未修者対応型の教育プログラムの展開」では、WEB講義システムや自習ナビシステムを構築し、自主学習支援に有効に活用している。(北海道)</p> <p>◎ 文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に平成16年度に採択された「データベース利用総合電子教育システム」では、法学部の法令判例室が所蔵する紙媒体の「判例カード」を電子化・データベース化して法科大学院生の効果的な学修を促進している。(北海道)</p> <p>◎ 文部科学省21世紀COEプログラムに採択された「心の文化・生態学的基盤に関する研究拠点」(平成14年度)、「特異性から見た非線形構造の数学」(平成15年度)、「トポロジー理工学の創成」(平成16年度)では、各拠点での取組を基に新たなカリキュラムや教育組織を開発するとともに、留学生を積極的に受け入れるなど、大学院教育のより一層の国際化・充実等に寄与し、支援期間終了後についても研究科や教育研究センター等の設置を行うなど、継続的発展に努めている。(北海道)</p> <p>◎ 文部科学省グローバルCOEプログラムにおいて、平成19年度には「触媒が先導する物質科学イノベーション」、「知の創出を支える次世代IT基盤拠点」、「心の社会性に関する教育研究拠点」の3件、平成20年度には「人獣共通感染症国際共同教育研究拠点の創成」、「多元分散型統御を目指す新世代法政策学」、「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」の3件と計6件が採択されており、これらの研究成果を大学院教育に活かしている。(北海道)</p> <p>◎ 文部科学省グローバルCOEプログラムにおいて、平成21年度には「境界研究の拠点形成」が採択されている。(北海道)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 文部科学省教育G Pにおいて、平成20年度に「選遊型カリキュラムによる教員養成の改善」が採択され、ステップアップ型チェックリストの改善、理論―実践選遊型カリキュラムの導入、電子ポートフォリオ等の検討を開始している。(北海道教育)</p> <p>◎ 文部科学省特色G Pにおいて、平成17年度に「へき地・小規模校教育実践プログラムの開発―地域と未来を開く教師教育―」が採択され、へき地・小規模校教育の理解を深め、実践現場を体験させることで、地域に生きる教員としての意識を形成するための取組が行われ、支援期間終了後も「へき地校体験実習」は体系化された企画・運営方法に基づき、学校・地域教育研究支援センターへき地教育研究支援部門、各校教育実習委員会、実習協力校の連携・協力の下に実施されている。また、映像資料は「へき地校体験実習」の事前・事後指導、「へき地教育論」、「へき地教育指導法」などの講義科目の資料として活用している。(北海道教育)</p> <p>○ 文部科学省現代G Pにおいて、平成19年度に「持続可能な社会実現への地域融合キャンパス～東北海道発E S Dプランナー養成・認証プロジェクト～」が採択され、地域のファシリテーターを養成し、E S Dプランナーとして認証するため、地域融合キャンパスをベースにした教科融合型の実践的カリキュラムの構築に向けた取組を展開している。(北海道教育)</p> <p>◎ 文部科学省「戦略的連携支援事業」において、平成20年度に「高等教育機関連携による「キャンパス都市函館」構想」が採択され、函館市内にある8つの高等教育機関の連携により構築した「キャンパスコンソーシアム函館」及び函館市を連携運営の主要組織として位置付け、より質の高い教育・研究環境を確保し、教育連携カリキュラムの開発など地域の総合大学的な機能を果たすための取組を行っている。(北海道教育)</p> <p>◎ 文部科学省教員養成G Pにおいて、平成17年度に「自己成長力を高めるチェックリストの開発―教育実践改善フィールド科目群を軸とした教師の基礎的資質と臨床的実践力の育成―」が採択され、教員養成課程で「教員養成チェックリスト」を活用した学習指導の工夫を行っている。また、教員養成以外の課程でも、ディプロマ・ポリシーを確認し、課程の特徴に応じた「チェックリスト」を作成している。(北海道教育)</p> <p>○ 文部科学省大学院G Pにおいて、平成19年度に「現職教員の高度実践構想力開発プログラム」が採択され、学校臨床心理専攻において、教育臨床実践メンター(指導者)によるメンタリング、勤務校訪問型のスーパーヴァイズ(助言指導)、現職教員と学部から直接入学した大学院学生の協働研究を教育に導入している。(北海道教育)</p>		
<p>◎ 平成19年度に「確かな学力の向上を目指す理系基礎教育」が文部科学省の特色G Pに採択され、理系学生に数学や物理等の基礎分野の原理や考え方を身に付けさせ、自在に使いこなす基礎的能力を習得させているが、さらに教育・工・農学部1年次生を対象として、初心者向け理系基礎実験科目(「化学」と「物理学」)を新設し、平成20年度より実施している。これらのプログラムは教養教育として継続して行うこととしている。(茨城)</p> <p>◎ 平成17年度に「自然共生型地域づくりの教育プログラム構築」が文部科学省の現代G Pに採択され、フィールド実習などの実践的な授業科目の開発を行い、地域環境に対する問題意識や「地域―学生パートナーシップ」の意識形成を図っており、終了後、当該プログラムはフィールドサイエンス教育プログラムの中に位置付けられるとともに、次のプログラムの芽となっている。(茨城)</p> <p>◎ 平成19年度に「地域サステイナビリティの実践農学教育」、平成20年度に「地域教育資源開発による高度教育専門職養成」が文部科学省の大学院G Pに採択され、農業と環境に関する問題解決に貢献する人材を育成する授業群の展開、学校現場での実践力を高める授業を行っている。(茨城)</p>		
<p>○ 平成20年度に文部科学省教育G Pに採択された「地域交流で生活の質を学ぶ実践的保健学教育―健康長寿の地域づくり」の人材育成を目指した問題解決型学習の導入―では、健康長寿の地域づくりの教育プログラムを推進し、「人」と「地域」に密着した体験型教育を展開している。(群馬)</p> <p>○ 平成16年度に文部科学省特色G Pに採択された「良医養成のための体験的・実践的専門前教育」では、医師の社会的責務を自覚させるためのカリキュラムを実施し、支援期間終了後も「良医の養成」という教育目的に沿って、「医の倫理学講義」、「チーム医療実習」等の授業が開講されている。(群馬)</p> <p>◎ 平成17年度に文部科学省特色G Pに採択された「多文化共生社会の構築に貢献する人材の育成―地域協働ネットワークを活用した専門的職業人の育成―」では、教養教育において、ボランティア活動などの実践的教育を強化するために、外国人集住地域の大量入(人口4万人の15%が外国人)をフィールドとして、関連科目を開講し、支援期間終了後も継続的に開講している。(群馬)</p> <p>○ 平成19年度に文部科学省特色G Pに採択された「多専攻学生による模擬体験型チーム医療実習―学科内完結型から学科外参加・発信型への発展的取組―」に基づき、急速に変化・発展を遂げる現場のチーム医療情勢を取り入れ、学科内完結型から学科外参加発展型へ向けた「シナリオ症例立脚型模擬体験型実習」及び「医学科学生との合同実習」などのチームワーク実習が行われている。(群馬)</p> <p>○ 平成16年度に文部科学省現代G Pに採択された「知的財産啓蒙教育及び弁理士チャレンジ教育」では、知的財産に関する教育を全学レベルの科目とし、学生に知的財産に関する基礎・専門知識を習得させている。(群馬)</p> <p>◎ 平成17年度に文部科学省現代G Pに採択された「産学連携による理系専門英語の実践型教育」では、自己の思考内容を、英語を用いて的確に相手に伝えることのできる人材を育成することを目標とし、支援期間終了後も一部を継続して、卒業単位として「専門外国語」、「技術英語」と、卒業単位外である「課外オープントレーニング講座」を開講している。(群馬)</p> <p>○ 平成18年度に文部科学省現代G Pに採択された「地域密着型健康づくりプランナーの育成―健康スポーツクラブサービスをコアにして―」では、健康づくりプランナー育成カリキュラムにより、地域の健康づくりに関する課題を分析・解決する人材及び行政区分・専門領域の健康プログラムを「健康スポーツに総合化」する人材等の育成が行われ、支援期間終了後も関連科目を開講している。(群馬)</p> <p>○ 平成19年度に文部科学省学生支援G Pに採択された「チューター制度を活用した臨床実習支援―時代のニーズにマッチした臨床実習支援の在り方について―」では、臨床実習に特化したクラークシップチューターを新たに設け、多様化する臨床現場教育を支援している。(群馬)</p> <p>○ 平成19年度に文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」に採択された「北関東地域連携がん先進医療人材育成プラン―重粒子線照射装置を中心とした集学的がん治療法の確立・普及を目指して―」では、大学院に専門コース(専門医養成、専門のケアメディカル養成、専門医等の研修)を設けることにより、がんに特化した医療者の養成を行っている。(群馬)</p> <p>○ 平成19年度に文部科学省医療人G Pに採択された「大学院融合型O J Tによる臨床試験人材養成」では、大学院教育カリキュラムと融合した医学附属病院臨床試験部におけるO J T重視型のプログラムを開発・実践し、臨床研究支援人材を養成している。(群馬)</p> <p>○ 平成18年度に文部科学省「派遣型高度人材育成協同プラン」に採択された「企業から期待されるナノテク技術人材の育成」では、「長期派遣型人材育成インターンシップ」を実施し、単位認定を行い、高い専門性と広い視野を持ち合わせた人材を育成している。(群馬)</p> <p>○ 平成19年度に文部科学省大学院G Pに採択された「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成―地域保健学研究プロジェクトを基盤とした実践的大学院教育―」では、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、教育、研究指導を実施し、地域の保健学領域の推進に寄与している。(群馬)</p> <p>◎ 平成17年度に文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ」に「大学院医学教育の双方型展開と実践(大学院教育研究センターを中心とした課程制大学院の実質化と高度化)」が採択され、この成果を基盤として、平成19年度に文部科学省大学院G Pに「先進的医学系大学院教育の拡充・展開と実践―大学院教育研究センターを核とする課程制大学院の実質化と高度化―」が採択され、大学院基礎教育を受けた大学院生にさらに多様な組織化された大学院コース(プログラム)を提供することで、高度な医学とそれに裏付けられた技能を修得させている。(群馬)</p> <p>◎ 平成19年度に文部科学省グローバルCOEプログラムに採択された「生体調節シグナルの統合的研究」では、大学院生とCOE研究員等による若手国際シンポジウム等の企画・運営、秋田大学との合同セミナーの開催、秋田大学と教員互換あるいは学生交換を推し進め、単位互換や共同の学位審査制度も採用することにより、若手研究者の育成に努めている。(群馬)</p> <p>○ 平成21年度に文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に「人体解剖とC Tの統合による先駆的医学教育―3次元人体構造の理解と画像診断能力育成法の質的改革―」が採択されている。(群馬)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>○ 平成17年度文部科学省現代GPに「大学・地域・学校連携型特別支援教育の推進－発達支援相談室「しいのみ」を拠点として－」が採択され、学生を学校現場に派遣して発達障害児の生活・学習をサポートする等の取組を行い、「埼玉方式」と呼ばれる新しい試みを開発している。(埼玉)</p> <p>○ 平成19年度文部科学省「ものづくり技術者育成支援事業」に「バーチャルトレーニングと実習を融合したものづくり技術者の育成支援」が採択され、当該大学で開発したVR技術と情報通信技術を融合したインタラクティブ型技能伝承・技能訓練システムと地元企業でのインターンシップにより、新たなものづくり教育を目指した。(埼玉)</p> <p>○ 平成18年度文部科学省教員養成GPに「『協働する実践者』としての幼稚園教員養成一幼小5年間のスペシャリスト養成をめざす地域連携型プロジェクト」が採択され、地域と大学との往還的な教員養成カリキュラムを開発し、県内の幼少交流活動の実践が図られている。(埼玉)</p> <p>○ 平成19年度文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」に「驚きと感動をつたえる理科大好き先生の養成－実験・観察のスキルアップを目指した大学・学校・地域連携プロジェクト」が採択され、小学校教員を対象とした研修会、出前授業を実施し、ワークショップ、講演会等を開催し、理科の実験・観察におけるスキルアップが目指され、実験・観察授業のために教材・教具の開発も行われている。(埼玉)</p> <p>◎ 平成19年度に文部科学省大学院GPに採択された「人文学によるスキル開発教育プログラム」「環境社会基盤国際連携大学院プログラム」及び平成20年度に文部科学省大学院GPに採択された「地域環境保全エキスパート養成プログラム－グローバルナノファブリケーションを実践する創造型人材の養成－」では、それぞれ得られた研究成果を教育に反映させるように試みている。(埼玉)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育実践支援)」に「ヒューマンインタラクションの文理融合教育」が採択され、人文・社会科学と工学の研究者が協力し、科学技術の振興に貢献する人材の育成を目指した。(埼玉)</p> <p>◎ 平成20年度に文部科学省特別教育研究経費による「連携大学院による地域型新生モノづくり教育推進プロジェクト－グローバルナノファブリケーションを実践する創造型人材の養成－」では、理工学研究科博士前期課程機械科学系専攻の中に「グローバルナノファブリケーション特別コース」を設置し、理化学研究所、地域企業と連携して、地域ニーズにこたえる人材の養成を目指している。(埼玉)</p> <p>◎ 平成20年度に文部科学省特殊要因経費(政策課題対応経費)による「4大学院連携先進創成情報学教育研究プログラム」では、当該大学を基幹校として、北関東の4校で連携して博士前期課程の教育カリキュラムを構築するプログラムを実施している。(埼玉)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 文部科学省教育G Pにおいて、平成20年度に採択された「P I S A対応の討議力養成プログラムー日本における国際先端の教養教育の実現ー」では、学生アンケートにより、教養教育において「討議力」が身に付いていないという結果を踏まえ、「知識・論理・表現などの能力の総合力」としての「討議力」の向上を目指した特色ある教育を実践している。(東京)</p> <p>◎ 文部科学省特色G Pにおいて、平成15年度に採択された「教養教育と大学院先端研究との創造的連携の推進」では、文部科学省21世紀C O Eプログラムに採択された「融合科学創成ステーション」などの先端研究の成果が反映される柔軟な教育システムの構築を意図しており、学習意欲が刺激され、履修上の不安が解消したり学習密度が高まるなどの様々な成果を上げている。(東京)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成18年度に採択された「畜産物の安全安心を保障する人材の育成教育ー首都近郊集約型畜産の振興地区茨城中央部における実践教育ー」では、「食の安全・安心」を保障するため、科学的なリスク・アセスメントを実践できる有能な獣医師等の畜産・獣医分野の専門家の養成に取り組んでいる。また、少人数による双方向性の授業を実現するため設置した、高度なICT支援による教育空間「駒場アクティブラーニングスタジオ(K A L S)」を活用した教養教育の取組「ICTを活用した新たな教養教育の実現ーアクティブラーニングの深化による国際標準の授業モデル構築ー」が、平成19年度に文部科学省現代G Pに採択されている。(東京)</p> <p>◎ 文部科学省大学院G Pにおいて、平成19年度に「メディカルゲノムサイエンス・プログラム」の1件、平成20年度に「経済学高度インターナショナルプログラム」、「大学連携によるICTリーダーシップ教育ー多様性と流動性の育成ー」の2件が採択され、大学院課程教育の教育改革に積極的に取り組んでいる。(東京)</p> <p>◎ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブにおいて、平成17年度に「人間の安全保障」プログラムの整備拡充、「英語による教学研究発表・討論の能力開発」、「創造情報実践教育プログラム」、「産学連携型研究インキュベータ機構の創設」、「理学系大学院教育先進プログラム」、「超横断的バイオ人材育成プログラム」、「バイオ分野の知財戦略の設計検証と人材育成」の7件が採択され、大学院課程の教育改革に積極的に取り組んでいる。(東京)</p> <p>◎ 文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」において、平成19年度に採択された「横断的ながん医療の人材育成と均てん化推進」では、診療科の枠を越えたがんの横断的臨床研修によるがんの集中的治療、特に横断的な化学療法と放射線治療の指導的人材の育成に取り組んでいる。(東京)</p> <p>◎ 文部科学省「先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」において、平成18年度に採択された「情報理工実践プログラム」では、ソフトウェアの開発過程を設計できる開発設計人材と情報技術を創造できる技術創造人材を掛け合わせたスペシャリストの育成を目指し、実践的なソフトウェア開発の経験と創造力・企画力を身に付けさせる取組を行っている。(東京)</p> <p>◎ 文部科学省「派遣型高度人材育成協同プラン」において、平成17年度に採択された「革新的インターンシップモデルの構築と実践」では、アジア開発銀行に学生を6か月間派遣するなど、国際開発プロジェクトに学生が参加できる機会を与えている。(東京)</p> <p>◎ 平成16年度に文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」において、「トランスナショナル・ロー・プログラムズ」、「国際化・実践手法による政策形成能力試行」の2件、平成18年度に「法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム」において、「体系的原子力教材の再開発」が採択され、専門職学位課程の教育改革に積極的に取り組み、その発展として、平成19年度に「専門職大学院等教育推進プログラム」において、「トランスナショナル・ロー・プログラムズ」、平成20年度に「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」において、「国際原子力専門職大学院展開プログラム(アジアを中心とした高度原子力技術者養成のための国際専門職大学院への展開)」が採択され、国際的に活躍できる高度専門職業人の養成に取り組んでいる。(東京)</p> <p>◎ 文部科学省グローバルC O Eにおいて、平成19年度に「生体シグナルを基盤とする統合生命科学」、「理工連携による化学イノベーション」、「セキュアライフ・エレクトロニクス」、「共生のための国際哲学教育研究センター」、「死生学の展開と組織化」、「世界を先導する原子力教育研究イニシアチブ」の6件が、平成20年度に「疾患のケミカルバイオロジー教育研究拠点ーメディカルサイエンスの未来を創造する医薬融合」、「ゲノム情報に基づく先端医療の教育研究拠点ーオーダーメイド医療の実現と感染症克服を目指して」、「未来を拓く物理科学結集教育研究拠点」、「教学新展開の研究教育拠点」、「都市空間の持続再生学の展開」、「機械システム・イノベーション国際拠点」、「国家と市場の相互関係におけるソフトローー私的秩序形成に関する教育研究拠点形成」、「ものづくり経営研究センター アジア・ハブ」、「次世代型生命・医療倫理の教育研究拠点創成ー学際的・国際的ネットワークの構築」、「学融合に基づく医療システムイノベーション」の10件が採択されており、先端的研究を反映した大学院教育を推進するとともに、国際的コミュニケーション能力等の育成に取り組んでいる。(東京)</p> <p>◎ 文部科学省グローバルC O Eにおいて、平成21年度に「ゲノム情報ビッグバンから読み解く生命圏」が採択されている。(東京)</p> <p>◎ 文部科学省21世紀C O Eプログラムにおいて、平成14年度に「生体シグナル伝達機構の領域横断的研究」、「「個」を理解するための基盤生命科学の推進」、「戦略的基礎創薬科学」、「動的分子論に立脚したフロンティア基礎化学」、「化学を基盤とするヒューマンマテリアル創成」、「情報科学技術戦略コア」、「未来社会を担うエレクトロニクスの展開」、「共生のための国際哲学交流センター」、「生命の文化・価値をめぐる「死生学」の構築」、「基礎学力育成システムの再構築」、「融合科学創成ステーション」の11件、平成15年度に「脳神経医学の融合的研究拠点」、「環境・遺伝素因相互作用に起因する疾患研究ーシステム疾患生命科学の研究拠点形成ー」、「ゲノム医学の展開による先端医療開発拠点」、「科学技術への教学新展開拠点」、「極限量子系とその対称性」、「多圏地球システムの進化と変動の予測可能性ー観測地球科学と計算地球科学の融合拠点の形成ー」、「強相関物理工学」、「機械システム・イノベーション」、「都市空間の持続再生学の創出」、「国家と市場の相互関係におけるソフトローービジネスローの戦略的研究教育拠点形成ー」、「先進国における《政策システム》の創出：比較政策システム・シナジー・コアの構築」、「市場経済と非市場機構との連関研究拠点」、「ものづくり経営研究センター」、「生物多様性・生態系再生研究拠点」、「心とことばー進化認知科学的展開」の15件、平成16年度に「言語から読み解くゲノムと生命システムー次世代バイオインフォマティクス拠点の創成ー」、「次世代ユビキタス情報社会基盤の形成」の2件が採択され、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材の育成を図っている。(東京)</p> <p>○ 文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム(戦略的国際連携支援)」において、平成17年度に採択された「東アジア・リベラルアーツ・イニシアティブ(E A L A I)」では、当該大学の教養教育を東アジアに発信する、新機軸の国際協力の取組を積極的に推進している。(東京)</p> <p>○ 文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム(先端的国际連携支援)」において、平成19年度に採択された「世界公共政策ネットワーク推進計画 ダブル・ディグリーの導入とグローバル化に対応する教育基盤の構築」の支援を受け、英語による授業の拡大等を図っているほか、コロンビア大学、シンガポール国立大学、北京大学、ロンドン大学、パリ政治大学院等との連携を通じて学生の交換留学等を行い、国際交流の進展を図っている。(東京)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 文部科学省教育G Pに平成20年度に「下級生が上級生に教わる歯科臨床体験実習」及び「医療と造形」が採択されており、特色ある教育が展開されている。(東京医科歯科)</p> <p>◎ 文部科学省特色G Pに平成17年度に採択された「歯科学シミュレーション教育システムの構築」及び文部科学省現代G Pに平成19年度に採択された「ICT活用教育と従来型臨床現場実習の連携」により、ICTを活用したシステムを構築して、成果を上げるなど指導上の工夫がなされている。(東京医科歯科)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pに平成16年度に採択された「国際的医療人育成のための先駆的教育体系」を踏まえた「国際性豊かな医療人・世界的競争に打ち勝つことのできる研究者の養成」(平成20年度文部科学省政策課題対応経費)では、21世紀の最先端の医療と生命科学に対応できる医療人の育成を目指し、教育の国際水準化を図ることを目的として、ハーバード大学医学部での臨床実習やインベリアルカレッジでの研究体験コースなど海外での学生の研究・研修の機会を拡大、海外での臨床実習、研修、研究を支援する英語学習プログラムの体系化等の取組が行われている。(東京医科歯科)</p> <p>◎ 文部科学省大学院G Pに平成19年度に採択された「大学院から医療現場への橋渡し研究者教育」では、医歯工連携を基盤にして、医療技術の高度化やこれらに直接関連する材料・機器の開発研究など、臨床への直接的なフィードバックを基調とした課題に取り組み、課程修了後も研究を継続して診療現場との橋渡し役となる工学的センスを持った医療(歯学・医学)の高度専門職能人の育成に努めており、「国際産学リンケージプログラム」では、生命情報科学教育部で養成する人材が修了後、国際社会貢献ができるように大学院として支援することを目的としている。また、平成20年度に採択された「歯科医学における基礎・臨床ボーダレス教育」では、基礎・臨床融合型教育研究システムを構築し、優れた研究能力等を備えた臨床歯科医等の育成、臨床指向型研究分野で世界をリードする研究者の育成を行い、「看護学国際人育成プログラム」では、グローバルな素養と見識を習得するためのアカデミックトレーニングを実施し、看護学国際人の育成を図っている。(東京医科歯科)</p> <p>◎ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに平成17年度に採択された「看護系大学教員の博士号取得推進プログラム」では、看護系大学の若手教員が、在職のまま博士号の取得を推進することを目的として、学生が在職する大学教員との連携による指導を実施し、「生命情報科学国際教育プログラム」では、英語による大学院教育を実施し、日本語を解さない学生もトップレベルの大学院教育を受けられる体制を整えている。平成18年度に採択された「歯科学領域における次世代高度専門家教育」では、医学・歯学領域の次の世代を担うオピニオンリーダーを育成することを目的として、選ばれた学生に対して教育を行っている。(東京医科歯科)</p> <p>○ 文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」に平成19年度に採択された「がん治療高度専門家養成プログラム」では、がん医療に特化した医療人の育成を目的とし、がん医療を担う医療人養成を推進している。(東京医科歯科)</p> <p>○ 文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に平成21年度に「コンピュータによる診療模擬実習の展開」が採択されている。(東京医科歯科)</p> <p>○ 文部科学省「大学教育充実のための戦略的産学連携支援プログラム」において、平成21年度に「学際生命科学東京コンソーシアムによる全人の大学院人材育成拠点の確立」が採択されている。(東京医科歯科)</p> <p>◎ 文部科学省21世紀COEプログラムに平成15年度に採択された「歯と骨の分子破壊と再構築のフロンティア」及び文部科学省グローバルCOEプログラムに平成20年度に採択された「歯と骨の分子疾患科学の国際教育研究拠点-デント・メドミックスのインテリジェンスハブ-」では、歯と骨の分子疾患科学について、世界最先端の研究を展開し、併せて次世代を担う国際的に活躍する若手研究者の養成に努めている。(東京医科歯科)</p>		
<p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成19年度に「科学的思考力と表現力で築く『私の履歴書』-キャリアレポート放送局で育む職業意識-」が採択され、当該プログラムによるキャリア教育が実施され、自らのキャリアプランを見据えた上での学習意欲の醸成が図られている。(お茶の水)</p> <p>○ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブにおいて、平成17年度に「＜対話と深化＞の次世代女性リーダーの育成」が、続いて文部科学省大学院G Pにおいて、平成19年度に「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」が採択され、大学院学生の海外派遣、国外における学会発表等により、国際的視野やコミュニケーション能力が養われている。(お茶の水)</p> <p>◎ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブにおいて、平成17年度に「生命情報学を使いこなせる女性人材の育成」が採択され、生命科学の研究を志す大学院学生に広義の生命情報学を習得させるプログラムを開発し、平成18年度に「ユニバーサルマインドをもつ女性人材の育成」が採択され、社会的必要性の高い諸問題の解決を図る女性研究者及び専門的職業人の育成を目指したプログラムを開発している。(お茶の水)</p> <p>○ 文部科学省教員養成G Pにおいて、平成17年度に「科学コミュニケーション能力を持つ教員養成」が採択され、「サイエンス・ライティング」等の授業科目は現在も常設化されている。(お茶の水)</p> <p>○ 文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」において、平成21年度に「多角的な学士力養成を担う総合的学修支援」が採択されている。(お茶の水)</p> <p>◎ 文部科学省グローバルCOEプログラムにおいて、平成19年度に「格差センシティブな人間発達科学の創成」が採択され、当該プログラム等により、最新の学術成果や情報を、シンポジウムやセミナーを通して教育に反映させる活動がなされている。(お茶の水女子)</p>		
<p>○ 平成15年度に文部科学省特色G Pに採択された「『楽力(がくりょく)』によって拓く創造的ものづくり教育」によって、知能機械工学科におけるものづくりに主眼を置いた実践的な講義・実習を行い、メカトロニクス機器の製作・実験を行う「メカトロニクス応用」、電子工学科の回路製作の実践力がつく「電子工学工房」が授業科目として開講されている。(電気通信)</p> <p>◎ 平成16年度に文部科学省現代G Pに採択された「専門重視の相互作用型e-ラーニング実践」により、専門科目を中心にe-learningによる教育実践に取り組み、支援期間終了後もe-ラーニング推進センターが中心となって全学的な実践を継続している。(電気通信)</p> <p>◎ 平成17年度に文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択された「問題設定型光科学教育プロジェクト」では、大学院学生が光科学に関する実験を企画、立案し、テキストを作成して学部学生を教えることで「他者を教育しながら自らが学ぶ」教育プログラムを実施して、「目的は十分達成された」との事後評価を受けている。平成18年度に文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択された「メカノインフォマティクス・カデット教育」では、実践的な問題を設定、解決する能力をもつ「創造的ものづくりエリート」の育成に努め、支援期間終了後も継続している。(電気通信)</p> <p>◎ 平成18年度に文部科学省「先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」に採択された「高度IT人材育成のための実践的ソフトウェア開発専修プログラム」においては、講義と演習を組み合わせた実践力を養うための教育を行っている。(電気通信)</p> <p>◎ 平成19年度に文部科学省大学院G Pに採択された「実践的テクノロジー学部プログラム」では、危機、限界に挑戦し、あえて失敗を経験することにより、研究開発の現場で真の創造性を発揮しうる人材の育成を目的としている。(電気通信)</p> <p>◎ 平成15年度に21世紀COEプログラムに採択された「コヒーレント光科学の展開」では、電気通信学研究科に専攻横断型の「コヒーレント光科学コース」を置き、事後評価において、「設定された目的は十分達成された」との評価を受けている。(電気通信)</p> <p>○ 平成21年度には、「チーム教育で育てる学力と教育力」が、文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に採択されている。(電気通信)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 文部科学省教育G Pにおいて、平成20年度に「夢を形にする技術者育成プログラム」が採択され、教育課程の充実や学習指導法の工夫がなされている。(福井)</p> <p>◎ 文部科学省特色G Pにおいて、平成15年度に「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」が採択され、家庭・学校、地域社会が抱える問題に、大学が主体的に取り組むことで地域貢献をしている。(福井)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成16年度に「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」の1件、平成17年度に「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」の1件が採択され、学士課程の教育に効果を上げている。(福井)</p> <p>○ 文部科学省教員養成G Pにおいて、平成17年度に「学校を拠点に教員の協働実践力を培う大学院」が採択され、実践力を養う学習指導に工夫がなされている。(福井)</p> <p>◎ 文部科学省「派遣型高度人材育成協同プラン」において、平成18年度に「地域産業との連携による派遣型高度人材育成」が採択され、産業の取組を理解し自主的に問題を解決する高度専門家の育成が図られている。(福井)</p> <p>○ 文部科学省大学院G Pにおいて、平成19年度に「学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育」が採択され、教育課程のより体系的な学習指導の工夫がなされている。(福井)</p> <p>○ 当該大学教職大学院における取組「実践力・改革力を培う長期協働実習の組織化」が、文部科学省の平成20年度「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」に採択されている。(福井)</p> <p>○ 当該大学における取組「学士力涵養の礎となる初年次教育の充実」が、文部科学省の平成21年度「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に採択されている。(福井)</p>		
<p>◎ 平成17年度に、文部科学省現代G Pとして当該大学が従来から推進してきたEGST教育の質の向上、定着を目指した「発信型国際技術者育成のための工学英語教育ー知識としての英語」から「道具としての英語」へ」が採択され、その成果はEGST教育取組として継続しており、事業開始以前から開講されていた「科学技術英語Ⅰ、Ⅱ」をより集中的に、より効率的に実施し、また、英語読本による多読課題クラスの対象を基礎クラス学生から全クラスの学生へと拡大している。(名古屋工業)</p> <p>◎ 平成19年度に、文部科学省現代G Pとして「&lt;啓き・支え・促し&gt;連携キャリア教育ー工学系学生のための実践的総合キャリア教育ー」が採択されており、新たに構築したキャリアデザインプログラムの開講、3年次及び博士前期課程1年次対象のジェネラルインターンシップの質・量の充実及び各相談室間の一体化が図られている。(名古屋工業)</p> <p>○ 平成20年度に、文部科学省「戦略的産学連携支援事業」として当該大学のほか、愛知工業大学、大同大学、豊田工業高等専門学校が連携して行う「工系系コンソーシアムによるものづくり教育の拠点形成」が採択されている。(名古屋工業)</p> <p>○ 平成17年度に、文部科学省「産学連携による実践型人材育成事業」として工学系大学院教育の教育システムとして、双方向の長期インターンシップの実施を目指した「技術の市場化を実現する産学連携教育(産学共通プラットフォームでの双方向インターンシップ)」が採択され、教育課程として、産業戦略工学専攻の共通科目「産業戦略創造企業演習Ⅰ・Ⅱ」を開講し、全大学院生を対象に知財教育、成果報告事後教育を合わせて実施している。(名古屋工業)</p> <p>◎ 平成14年度に、文部科学省21世紀COEプログラムとして採択された「環境調和セラミックス科学の世界拠点」の実績を背景に、最終年度である平成18年度にセラミックス科学教育研究院を設立し、その中の部門の一つにセラミックスCOE教育部を設け、大学院学生を対象に、海外留学、インターンシップを取り入れた実践的教育による人材育成を目指している。(名古屋工業)</p> <p>◎ 平成19年度に、文部科学省及び経済産業省の共催事業である「アジア人財資金構想」として留学生を対象とした「自動車産業スーパーエンジニア養成プログラム」が採択され、自動車関連企業と自動車部品工業会からなるコンソーシアムにより、自動車産業界での活躍を目指した教育プログラムを産学連携で開発している。(名古屋工業)</p> <p>○ 平成21年度に、文部科学省「理科学学生支援プロジェクト」として学部生の期間に、工学一般に関する基礎的な研究力を養成することを目指す「名工大TIDAプログラム」が採択されている。(名古屋工業)</p>		
<p>◎ 平成18年度文部科学省特色G Pに「びわ湖から学ぶ環境マインドー調査艇を利用した湖上体験学習ー」が採択され、びわ湖をフィールドとした実感的体験と科学的な調査を通して環境マインドと問題解決のための実践力の向上を図っている。このプログラムは、支援期間終了後も「湖上体験学習」等の実施に係る資金を措置し、継続実施している。(滋賀)</p> <p>○ 平成18年度文部科学省現代G Pに「知識創造型ユビキタスな学びプロジェクトー携帯電話対応コメントカードシステムを活用した知識創造力の育成ー」が採択され、携帯電話コメントカードシステムを活用し、小グループによる問題解決演習をユビキタスな環境で行っている。このプログラムは、支援期間終了後もブレンデッド型e-learning等の実施に係る資金を措置し、継続実施している。(滋賀)</p> <p>○ 平成20年度文部科学省「産学連携による実践型人材育成事業ーサービス・イノベーション人材育成ー」に「公共的対話と知的共同作業をベースにイノベティブな「心の習慣」と「イノベーション評価能力」を養成し、地域的競争力の強化にコミットメントする中核的人材育成事業」が採択され、イノベーション力を持った人材を育成するための教育プログラムの開発と試行に着手し、社会のニーズに即した教育プログラムの開発の取組を進めている。(滋賀)</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに「リスクリサーチー養成教育プログラム」が採択され、中国東北財経大学との間で海外共同教育プログラムを開発するなどの活動を行っている。このプログラムは、支援期間終了後も、D2及びD3研究報告会や国際共同研究として、その活動を継続している。(滋賀)</p> <p>○ 平成18年度文部科学省教員養成G Pに「実践力診断講座」による教員の資質向上ープレ講座からパーソナルロードマップの作成へー」プログラムが採択され、現職教員の資質や問題意識を的確に把握し、各人に応じた学習方針を提示するため、「実践力診断講座」を開設し、さらに、「実践力強化講座」及び「フォローアップ講座」によって、教員の資質向上を図っている。このプログラムで作成されたビデオ教材等は、支援期間終了後も授業や演習で使用されており、教育フォーラムの実施による修了生へのアフターフォローも行われている。(滋賀)</p>		
<p>◎ 平成16年度文部科学省現代G Pの「産学連携によるプライマリ・ケア医学教育」を通じて全人的医療教育を推進し、プログラム終了後もその成果を継承する目的で、「臨床実習(診療所実習)」として授業科目に取り入れている。(滋賀医科)</p> <p>◎ 平成17年度文部科学省医療人G Pの「一般市民参加型全人的医療教育プログラム」を通じて全人的医療教育を推進し、プログラム終了後もその成果を継承する目的で、「全人的医療体験学習」として授業科目に取り入れている。(滋賀医科)</p> <p>○ 平成20年度文部科学省「戦略的産学連携支援事業」に「びわこバイオ医療大学間連携戦略」が採択され、バイオサイエンスを医療部門に活かせる人材の育成を目指し、長浜バイオ大学と授業や実習で相互に協力をしている。(滋賀医科)</p> <p>◎ 看護学科の教員と附属病院の看護師が協同で学生の教育を担い、臨床と現場をつなぐ役割をもった臨床看護教育者の育成を目指し、その結果として、「スーパーナース育成プランー専門分野の知を結集し臨床看護教育者を育てるー」が平成21年度文部科学省「看護職キャリアシステム構築プラン」に採択されている。(滋賀医科)</p>		



基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 文部科学省教育G Pに平成20年度に採択された「食と環境の安全安心を担う薬学人材養成教育」では、薬学教育に対する社会的ニーズである「食と環境の安全・安心の確保に貢献できる人材育成」を目的として、環境薬学教育プログラムを実施している。(大阪)</p> <p>◎ 「進化する理学教育プログラム」(文部科学省特色G P、平成16年度採択)及び「知的能動性をはぐくむ理学教育プログラム」(文部科学省教育G P、平成20年度採択)(理学部)では、全学科共通のコア科目を設定するとともに、様々な学術の発展動向を踏まえた科目「理学への招待」を新設するなど、専門科目へのスムーズな移行を可能としている。(大阪)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pに平成17年度に採択された「国際的な人材養成に資するコンテンツの開発」では、e-learning教材を用いて工学英語教育を実施しているほか、バイオテクノロジーなどの先端科学技術5分野に関する英語教材を開発している。平成18年度に採択された「親と子の心を支援できる人材育成教育の構築—地域と連携した専門職育成教育プログラム」では、合宿によるコミュニケーション研修や当事者や家族の授業参加など実践的な要素を大幅に取り入れた教育プログラムを実施している。平成19年度に採択された「デンタルスキル養成実体感シミュレータ学習—バーチャルリアリティ触力覚デバイスを応用した歯科ハンドスキル・シミュレーショントレーニング」では、コンピュータ技術を駆使した触力覚デバイスをを用いた実習を実施している。(大阪)</p> <p>◎ 文部科学省大学院G Pに平成19年度に採択された「人間科学データによる包括的専門教育」では、文章や画像データを計量的に分析する方法などを学ぶ授業科目を開講している。「インタグレートイット大学院理学教育」では、学生の視野の拡大や、研究意欲の向上を図っている。「医科学修士の健康医療問題解決能力の涵養」では、これまでにない文理融合型のプログラムを展開している。「創業推進教育プログラム」では、医学系研究科及び薬学研究科・専攻所属の学生がともに学ぶ環境を提供し、実践的な知識と技能の習得に取り組んでいる。「複合システムデザインのためのX型人材育成」では、中間報告書等の作成と工学研究科教員への配付を通して、取組と成果の波及に取り組んでいる。平成20年度に採択された「先端科学から未来医療を創る人財の育成」では、専門性を活かしながら幅広い知識を身に付けられるように努めている。このほか、平成19年度には「継続的交換留学制度の構築に基づく人材育成」が、平成20年度には「イノベーションリーダー養成プログラム」、「教壇から社会に発信・発進する人材の育成」、「国際連携大学院FDネットワークプログラム」が採択され、それぞれ目的に沿った教育に取り組んでいる。加えて平成21年度には「健康環境リスクマネージメント専門教育」、「システム創成プロフェッショナルプログラム」の2件が、新たに採択されている。(大阪)</p> <p>◎ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに平成17年度に採択された「実践的研究者」養成をめざす人間科学教育」では、大学院学生の実践的研究推進のサポートに取り組んでいる。同じく平成17年度採択の「統合デザイン力教育プログラム」では、大学院レベルでの設計方法論、高度な数学や力学についての素養を習得する機会を設けている。平成18年度に採択された「先端通信エキスパート養成プログラム」では、情報通信の幅広い分野に関する知識の習得に取り組んでいる。このほか、平成17年度には「ソーシャルネットワーク型人文学教育の構築」、「存在感ある若手研究者養成のための教育改革」、「インタラクティブ大学院教育」、「学習コミュニティに基盤を置く大学院教育」、「先導的教育研究融合プログラム」、「実践力向上のメンター制とPBリーダー養成」、「学際新領域を先導する21世紀基礎工学教育」、「ソフトウェアデザイン工学高度人材育成コア」が、平成18年度には「国際公益セクターの政策エキスパート養成」、「生命先端工学国際創造教育プログラム」が採択され、それぞれ目的に沿った教育に取り組んでいる。(大阪)</p> <p>◎ 文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」に平成19年度に採択された「チーム医療を推進するがん専門医療者の養成—集学的治療から在宅医療そして緩和ケアまで—」では、今後のがん医療を担う医療人の養成推進に努めている。(大阪)</p> <p>◎ 文部科学省「先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」に平成18年度に採択された「高度なソフトウェア技術者育成と実プロジェクト教材開発を実現する融合連携専攻の形成」では、これを元にして関西経済連合会が主催する社会人向け組込みソフトウェア技術者育成プログラム「組込み適塾」を立ち上げ、社会人教育にも取り組んでいる。(大阪)</p> <p>◎ 文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム(戦略的国際連携支援)」に平成17年度に採択された「融合科学を国際的視野で先導する人材の育成」は、学生が海外に目を向けたり、語学力向上の必要性を感じたりする良い機会となっている。(大阪)</p> <p>◎ 文部科学省グローバルCOEプログラムに平成19年度に採択された「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」では、人文学の社会的役割並びに学術情報の発信方法を検証・習得する機会を提供して、文献研究に止まらない新しい領域に挑む若手研究者の育成に努めている。同じく平成19年度に採択された「生命環境化学グローバル教育研究拠点」では、学生の英語能力の向上を図り、国際的に活躍する研究者の育成に努めている。平成20年度に採択された「人間行動と社会経済のダイナミクス」では、英語での国際的なレベルの研究論文の執筆・発表能力の向上に努めている。このほか、平成19年度採択の「高次生命機能システムのダイナミクス」では“異分野融合で「おもろい」研究を目指す”、“構造・機能先進材料デザイン教育研究拠点”では“材料が世界を変える”、“アンビエント情報社会基盤創成拠点”では“生物に学ぶ情報環境技術の確立”、“次世代電子デバイス教育研究開発拠点”では“多彩な若手研究者が集うユニットで、社会を動かす「ねじくぎ」を創り出す”、“医・工・情報学融合による予測医学基盤創成”では“新時代の医療と知識集約型の新規産業を創成する”を、平成20年度採択の「オルガネラネットワーク医学創成プログラム」では“大阪大学の生命科学研究を結集して新しい医学の創成を目指す”、“物質の量子機能解明と未来型機能材料創出”では“夢の「室温超伝導」物質創成へ”、“高機能化原子制御製造プロセス教育研究拠点”では“自然の精緻さによって製造技術をかえる”を、それぞれのキーワードとして教育研究拠点の形成に取り組んでいる。平成21年度には新たに「認知脳理解に基づく未来工学創成」が採択されている。(大阪)</p> <p>◎ 文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」に平成19年度に採択された「紛争の予防能力と修復能力を備えた法曹養成—プロセスとしての紛争処理に向けて—」により、法曹に対する社会からの要請に対応した高度な紛争解決能力を将来の法曹たる学生に身に付けさせることに寄与している。(大阪)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>○ 平成20年度文部科学省教育G Pに「教員養成大学による地域食育推進プログラム－食育オフィスの開設と食育リーダーの育成－」が採択され、その成果を学部教育（「食育と生活」、「給食指導」、「総合演習（食育と共生）」）へ反映させている。（奈良教育）</p> <p>◎ 平成15年度文部科学省特色G Pに「現代的課題に対応する導入教育科目群の展開－「考える力」「表す力」の育成をめざした教育者養成－」が採択され、その成果を学部教育（「学校教育基礎セミナーI」、「総合教育基礎論」）へ反映させている。（奈良教育）</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省現代G Pに「職業意識育成プログラムのリメーカーメンタルフレンドとしてのケア参画型キャリア教育の展開－」が採択され、その成果は、教育現場がかかえる様々な課題に対し、人権の尊重を前提として、熟意をもって教育に携わる実践的な指導力の育成に反映されつつある。（奈良教育）</p> <p>○ 平成20年度文部科学省「戦略的大学院連携支援事業（教育研究高度化型）」に「地域に根ざす多様な教育支援人材の育成プログラムと資格認証システムの実践的共同開発」（6大学連携）が採択され、その成果は、地域に根ざす多様な教育支援人材の育成に反映されつつある。（奈良教育）</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省教員養成G Pに「高大融合による理数科高校教員の養成」が採択され、その成果は、平成20年度より始まった「地域の学校園及び保護者と取り組む新理数科教育システムの開発」プロジェクトにおいて、より深化・体系化させた理数科教育プログラムへと展開させている。（奈良教育）</p> <p>◎ 平成17年度文部科学省教員養成G Pに「鍵的場面での「対応力」を備えた教員の養成－提携校を拠点としたテトラ型チームで取り組むプログラムの開発と実践－」が採択され、その成果を学部教育（「教職実践」）へ反映させている。（奈良教育）</p> <p>○ 平成18年度文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム（海外先進教育実践支援）」に「子どもスポーツ指導プログラムの国際化推進－実践的指導力のある教員養成システムの構築－」が採択され、その成果を学部教育（「スポーツ指導方法論」）へ反映させている。（奈良教育）</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」に「幼児統合の「保育実践知」教育プログラム－“3つの学びの循環”“5つの内容”から構成する教育プログラムの開発－」が採択され、その成果を学部教育（「幼年教育特論」、「保育内容特論」、「幼児と健康」）へ反映させている。（奈良教育）</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省大学院G Pに「「地域と伝統文化」教育プログラム」が採択され、その成果を大学院修士課程の教育（「世界の中の奈良－伝統と継承・発信－」）へ反映させている。（奈良教育）</p> <p>◎ 平成17年度文部科学省教員養成G Pに「鍵的場面での「対応力」を備えた教員の養成－提携校を拠点としたテトラ型チームで取り組むプログラムの開発と実践－」が採択され、その成果を大学院修士課程の教育（「教職実践指導」）へ反映させている。（奈良教育）</p> <p>○ 平成20年度文部科学省「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」に「実習到達度を明確にした実践的指導と評価法」（富崎大学と共同）が採択され、学部卒業生、社会人、現職教員等、多様な力量と背景を持った教職大学院生の「教育実習」について、実践的実習を踏まえつつ、有効な指導法のためのループリク（評価判断基準）の開発を進めている。（奈良教育）</p> <p>○ 平成19年度文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」に「学校問題ネットワーク構築による大学院教育－学校及び地域教育機関と連携したフィールドベースの演習プログラムの開発－」が採択され、その成果を教職大学院の教育（「学校実践I～IV」）へ反映させている。（奈良教育）</p>		
<p>○ 平成20年度文部科学省教育G Pに「「環境寺子屋」による理科好き教師の育成－豊富な環境リテラシーを有する「理科に強い義務教育教員」育成プロジェクト」が採択され、「理科教育と環境教育に強い教師」の育成を目指して「環境・理科教育推進室」を整備し、初等・中等教員の理科指導力の向上を直接の目的とした体験型教育プログラムを企画・運営している。（島根）</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省特色G Pに「確かな教師力を育む多角的評価の実現－「1,000時間体験学修」「学生プロフィールシート」「面接道場」で可視化する教師としての自己成長－」が採択され、学生一人一人の教師力向上の可視化を実現するプログラムを開発している。（島根）</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省現代G Pに「地域医療教育遠隔支援e-ラーニングの開発－地域医療病院・保健福祉施設実習における医学・看護学統合型e-ラーニングシステムの構築－」が採択され、「島根e-地域ネット」を開発し、地域での実習に必要な知識や技能が修得できる有効なコンテンツを作成している。（島根）</p> <p>◎ 平成17年度文部科学省医療人G Pに「夢と使命感を持った地域医療人の育成－日本版WWAMIプログラム」が採択され、米国WWAMIプログラムの見学体験研修などの取組を行っている。（島根）</p> <p>○ 平成17年度文部科学省教員養成G Pに「戦略的FDによる資質向上スパイラルの実現－地域教員養成基幹学部のミッションを達成する「協同」の構築－」が採択され、教員養成教育プログラムの抜本的改善に取り組んでいる。（島根）</p> <p>○ 平成20年度文部科学省「大学教育の国際化加速プログラム（海外先進教育研究実践支援）」に「海外に学ぶ地域医療教育者のキャリア形成－家庭医学・在宅看護学の教育スキル向上を目指した海外先進事例研修－」が採択され、海外からシミュレータ教育指導者を招聘するなど、学生への実践的医療技術教育を行っている。（島根）</p> <p>○ 平成19年度文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」に「銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム－中国地方中山間地のがん医療均てん化を目指す－」（共同プロジェクト）が採択され、がん医療に携わる人材の育成を目指した取組を行っている。（島根）</p> <p>○ 平成16年度文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に「実務家との協働によるリーガルクリニック」が採択され、法務研究科内に地域法律相談センターを設置し、法科大学院生を参加させ、相談依頼者との間で法律事例をめぐるコミュニケーションの方法を実体験させることで臨床的な法律養成教育を実施し、さらに法曹養成教育のさらなる高度化を目指した「リーガルクリニック」を行っている。（島根）</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 文部科学省の教育G Pにおいて、平成20年度に「工学教育を支える「教育力」養成プログラム」と「アクセシビリティリーダー養成プログラム」が採択され、前者では、細かい教育体制と厳格な基礎学力評価システムを構築し、工学問題の解決に自在に活用できる「数学力」を身に付ける取組を行っている。また後者では、情報サービス、環境の利便性を誰もが享受できる豊かな社会を創出する人材の育成に取り組んでいる。(広島)</p> <p>◎ 文部科学省の特色G Pに平成16年度に採択された「高等教育のユニバーサル化」では、音声認識技術を活用した情報保障支援方法の導入や障害者支援技術、電子情報技術・支援技術等の習得のための教養教育授業(「障害者支援ボランティア概論」、「障害者支援ボランティア実習」)実施し、学生を障害学生支援の推進者として育成している。また、平成19年度に採択された「協調学習による理学的知力の育成支援」では、演習授業の中で学生が互いに教えあうことによって学ぶ認知的学習法を演習形式で実施し、理学的知力を身に付ける取組を進め、学生の自主性と学習意欲の向上を図っている。(広島)</p> <p>◎ 文部科学省の現代G Pにおいて、平成16年度に当該大学と鳥取・岡山・山口・愛媛・広島県立大学の6国立大学共同申請による「大学間連携によるフィールド教育体系の構築—中国・四国地域の農学系学部をモデルとして—」が採択され、6大学が連携して人的・物的資源を相互補完しながら、生物資源を基にした食と環境に関わる総合的なフィールド教育の体系化を図っている。平成18年度に採択された「地域連携薬剤師高度化教育プログラム」では、ロールプレイ型外来診察体験ソフト「患者百選」を用いて、薬学生の臨床薬学の講義や臨床前実習に活用している。さらに、インターネット配信により時間と場所に関係なく臨床知識と技術を学ぶことができ、臨床現場を意識した学習につながっている。「学生提案型キャリア形成システム基盤構築」では、学生が主体的・提案型取組を考え、計画・実行する「フロントランナープログラム(FRP)」、それを効果的に運用する「キャリアメンター制」という取組を中心に実施し、特に前者では、キャリアパスガイダンスの開催やプロジェクト学習方式を採用して、学生の自主的・積極的取組姿勢を促している。平成19年度に採択された「子どもの心と学び支援プログラムの展開」では、心と学び支援の専門的実践力を備えた教員の養成のため、ここにこルームを中心として学生参加型の各種地域サービスを実施するとともに、広島県、広島市、東広島市の教育委員会と連携し、学生を学校へ相談員として派遣し、大学教員、学校教員の指導の下で相談、教育・研修サービスなどの実習を行って、学生の資質向上に努めている。(広島)</p> <p>◎ 文部科学省の医療人G Pにおいて、平成18年度に「実践的ヒューマン・コミュニケーション教育」が採択され、薬学教育の初期段階から倫理観、使命感を身に付け、患者や他職種の医療スタッフとのコミュニケーションが十分行える薬剤師を養成することに取り組んでいる。(広島)</p> <p>◎ 文部科学省の現代G Pに平成16年度に採択された「「国境を越えるエンジニアリング」では、博士課程前期の学生を対象として「技術移転論」、「海外インターンシップ」、「技術移転演習(PBL)」などを開講するとともに、海外派遣型技術者養成プログラムとして、学生をアジア諸国の技術移転現場へ現地研修として派遣し、国際的な視野と技術者倫理、コミュニケーション能力を身に付けさせる取組を行っている。(広島)</p> <p>◎ 文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」に平成19年度に採択された「銀の路で結ぶがん医療人養成コンソーシアム」では、当該大学、鳥取大学、島根大学の3大学が連携して、人材交流や単位互換、e-learningやTV-カンファレンスによるリアルタイムな情報交換、コマディカル講習会による教育機会の提供など、相互の補完を図り、がん医療に携わる人材の育成に努めている。(広島)</p> <p>◎ 文部科学省の大学院G Pに平成19年度に採択された「文理融合型リサーチマネージャー養成」では、課題の発見・解決のための調査・検討、合宿研修でのグループ討論やプレゼンテーション、また、「ICTリテラシー演習」、「英語運用演習」、「研究倫理」、「文系対象科学基礎実験」などのリテラシー科目の新設、さらに、グループ研究の専門研究への応用、21世紀科学プロジェクト群における研究発表・調査・研修、学生による「独自プロジェクト研究」の企画・実施などを行い、文理融合型リサーチマネージャー養成に努めている。「グローバルインターンシップ推進拠点の形成」では、講義・PBL・演習・英語プレゼンテーションなどによる事前研修、グローバルインターンシップによる現地教育、事後報告会、討論、論文作成などの事後教育、T A・R Aを活用した週上教育、学生の現地再派遣などのフォローアップ教育を進め、新しい分野の課題に挑戦できる研究者、国際協力・援助をリードする事務者、高度専門職業人としての留学生・研修生の育成を推進している。「E d . D型大学院プログラムの開発と実践」では、博士課程後期学生を対象として、大学の教員養成担当者としての資質能力の向上を目指し、「教員養成学講義」、「大学教授学講義」などの講義、教職教育のカリキュラム開発、シラバス作成、T Aとしての教育実習などを行い、実践的力量の向上に努めている。「世界レベルのジオエキスパートの養成」では、地球惑星科学分野におけるフィールド調査、分析・計測、シミュレーションの技術・能力と幅広い素養を持った問題発掘型の人材を養成するため、コアコースによる基礎教育とアドバンスコースによる最先端研究の教育を実施している。また、学位授与まで明確、厳密な評価を実施し、さらに英語の授業や国内外連携研究機関との交流を行って国際化教育を進めている。「数理生命科学融合教育コンソーシアムの形成」では、数理学と生命科学の双方に精通した人材の育成を目指し、数理科学系と生命科学系の学生が協調して学習したり、学部においてファシリテーターとして「数理生命科学」のトピックスを講義して、学生の資質形成を支援している。平成20年度に採択された「食料・環境系高度専門実践技術者養成」では、食料・環境系におけるスペシャリスト・ゼネラリスト融合型の高度専門実践技術者の育成を目指し、能力と目標に応じた履修科目のステップアップや組合せにより、専門領域の深い知識と応用展開能力を修得できるカリキュラムを作成している。「バイオデンティス育成プログラム」では、生命科学の急速な進歩を理解し、生物学的根拠に基づく病因の特定、それを標的とした予防・診断・治療の開発を実践できる人材の育成を目指し、生命・医療倫理と専門知識を学ぶコアカリキュラム、実習型コースワーク、基礎・臨床融合型専門プログラム、英語による講義・演習・プレゼンテーション・論文作成、海外インターンシップ、海外医療活動や地域福祉活動への参加など、様々なプログラムを実施している。(広島)</p> <p>◎ 文部科学省の「「魅力ある大学院教育」イニシアティブ」に平成17年度に採択された「数理生命科学ディレクター養成プログラム」では、生命科学与数理学を統合した教育研究を進展させ、自ら新しい研究を創成できる数理生命科学ディレクターの養成を目指している。「国際協力学を拓く実践的研究者養成の試み」では、国際的に通用する高度専門職業人の養成を目指し、複数の専門知識・技術及びデザイン能力を取得させるため、専門の異なる複数の教員による分野横断型教育プログラム、産官学連携海外インターンシップによる現地課題解決型研究、国際協力学の教材開発と通信技術を活用したPBL教育などを実施している。(広島)</p> <p>◎ 文部科学省の教員養成G Pにおいて、平成17年度に「メンター制構築による実践的指導力の高度化」が採択され、大学院学生、大学院教員、メンターの3者が協働する体制を構築し、大学を主な場として教科授業や生徒指導を中心とした理論的研究の推進、協力校・附属学校を主な場として教科指導並びに生徒指導の実践的指導力の高度化を図る取組を行い、高度な教科授業力・生徒指導力を有する教員の育成を図っている。(広島)</p> <p>◎ 文部科学省の「法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム」において、平成16年度に「法律相談事例を活用した実務基礎教育の充実」が採択され、臨床法学教育のためリーガル・サービス・センターでの無料法律相談などへの参加や実務基礎科目(リーガル・クリニック、民事訴訟実務基礎、法文書作成、ローヤングなど)の充実を図り、ビジネス分野に強い法曹の養成に取り組んでいる。(広島)</p> <p>◎ 我が国の高等教育の質保証の強化に資する学士力確保や教育力向上につながる取組である文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」において、平成21年度に「新世代到達目標教育プログラムの構築」が採択されている。(広島)</p> <p>◎ 地域の知の拠点として、国公私立大学間の連携を推進し、各大学における教育研究資源の有効活用、教育研究水準のさらなる高度化、教育活動の質保証、個性・特色の明確化に伴う機能別分化の促進と相互補完などとともに、地域と一体となった人材育成の推進を図ることを目的とした、平成21年度の文部科学省の「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に、広島市立大学及び広島工業大学との連携による取組「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成」が採択されている。(広島)</p> <p>◎ 文部科学省の21世紀COEプログラムにおいて、平成14年度には「テラビット情報ナノエレクトロニクス」、「21世紀型高等教育システム構築と質的保証」、平成15年度には「放射線災害医療開発の先端的研究教育拠点—ガム障害科学に基づく学術基盤の確立と医療展開—」、「社会的環境管理能力の形成と国際協力拠点」、平成16年度には「超速ハイパービーム技術が開く新世界(21世紀産業革命に向けて)」が採択され、これらの研究成果を大学院教育に活かしている。(広島)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 平成20年度文部科学省教育G Pに「目標達成型大学教育改善プログラム」が採択され、グラデュエーション・ポリシーを核とし、5つの重点プロジェクトを中心に、教育改善の実質化を目指した事業を展開している。(山口)</p> <p>◎ 平成16年度文部科学省特色G Pに「TOE I Cを活用した英語カリキュラム-教育の水準保証と学習支援-」が採択され、全学生にTOE I C受験を義務付けるなど、英語力の向上につながっており、支援期間終了後も継続的に成果を上げている。(山口)</p> <p>◎ 平成17年度文部科学省特色G Pに「山口大学おもしろプロジェクト-学生の創造性に期待する支援事業-」が採択され、学生に経費の支給又は物品の貸与等を行うなど、学生自身の企画を支援する取組を積極的に行っている。(山口)</p> <p>○ 平成18年度文部科学省特色G Pに「総合電子システムを活用した医学教育の改善-学生の自発的学習態度を高くむIT活用-」が採択され、自学自習のできる自己開発型学習支援ツールを整備し、また、学生の授業評価のオンライン化も実施するなど、医学教育を円滑に推進する取組を行っている。(山口)</p> <p>◎ 平成17年度文部科学省特色G Pに「工学系教学基礎学力の評価と保証-グローバルスタンダードをめざして-」(共同プロジェクト)が採択され、工学系教学基礎学力を評価・保証するシステムを作り上げるなど、教育方法の工夫・改善を行っている。(山口)</p> <p>◎ 平成17年度文部科学省現代G Pに「理工学系学生向けの実践的知的財産教育」が採択され、知的財産権用テキストを制作し、授業に活用するなど、学生に大学教育と実社会との接点を認識させ、学習の動機付けを促し知的財産に精通した高度専門人となることを強く意識させることに努めている。(山口)</p> <p>○ 平成19年度文部科学省現代G Pに「教職を目指す学生への実践的知財教育の展開-学生による指導案と教材の開発及び検証を通じた知財教育の展開-」が採択され、教職を目指す学生らが初等・中等教育での実際の教育指導に使用できる教材群を制作し、実効性を検証するなどの取組を行っているほか、共通科目「知的財産の開発と権利」の開設や、教育学部専門科目の内容に開発した指導内容を組み込んだ指導を行っている。(山口)</p> <p>○ 平成16年度文部科学省現代G Pに「大学間連携によるフィールド教育体系の構築-中国・四国地域の農学系学部をモデルとして-」(共同プロジェクト)が採択され、人的、物的資源を相互補完しながら総合的なフィールド教育の体系化を図っている。(山口)</p> <p>○ 平成17年度文部科学省教員養成G Pに「「ちゃぶ台」方式による協働型教職研修計画」が採択され、子供と継続的に関わる多様な場を提供するとともに、「ちゃぶ台」を設けるなど、学生の実践的校理解や、「臨機応変さ」、「人間力」等の教員に不可欠な資質能力の涵養につながっている。(山口)</p> <p>○ 平成17年度文部科学省「魅力ある大学院教育 イニシアティブ」に「医工融合実践教育プログラム」が採択され、従来の枠を超えた医学と工学の融合型教育を実現するとともに、教育研究の背景となる国際的先端研究との連携や医学系大学院学生を含めた医療関係者の卒後人材育成を目指した社会連携を実施している。(山口)</p> <p>○ 平成19年度文部科学省医療人G Pに「大学院コースによる臨床研究支援人材の養成-「臨床試験支援センター」を中心として-」が採択され、臨床研究支援人材を幅広く、治験・臨床研究の活性化を図る取組を行っている。(山口)</p> <p>○ 文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進研究実践支援)」において、平成18年度に「微生物機能開発センター設置への研究力強化」が、平成19年度に「液体燃料適用マイクロコンパスタの先端研究」が採択されている。前者のプログラムでは若手研究者を海外に派遣し、その成果を個々の研究で発展させ、後者のプログラムでは、研究成果を発展させたテーマが企業の研究助成を受けたほか、科学研究費補助金にも採択されている。(山口)</p> <p>○ 平成20年度に文部科学省「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」に「MOT教育コア・カリキュラムの開発」(共同プロジェクト)が採択され、産業界が真に要望するMOT人材の育成を行っている。(山口)</p> <p>○ 平成19年度文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」に「ちゃぶ台型ネットによる理科教育支援計画」が採択され、「「ちゃぶ台」方式による協働研修システム」を活用して理科教育における具体的な課題の解決をネットワーク方式で行っている。(山口)</p> <p>○ 平成18年度文部科学省「法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム」に「MOT協議会における教育推進プログラム」(共同プロジェクト)及び「教室と経営体の融合による技術経営教育」が採択されている。前者のプログラムでは協議会メンバーが中心となって産業界等の協力を得ながらMOTの専門職大学院の在り方について検討を行うとともに、教育の質の向上のための活動を行っており、後者のプログラムでは大学院の教室と経営体(経営・製造・研究現場)とを融合させて高度で実践的な技術経営教育を行っている。(山口)</p> <p>○ 平成19年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に「解析主導設計(ALD)を活用した先進ものづくりを実現する体系的な地域人材高度化教育」が採択され、中小企業の経営者と技術者を対象として、技術としてのデジタル・エンジニアリング技術の学び直しと、それを最大限に活用するマネジメント能力を習得するための体系的な高度ものづくり教育を行っている。(山口)</p>		
<p>◎ 平成20年度文部科学省教育G Pに「現場主義に基づく地域づくり参画型教育」が採択され、学生と教員が住民とともに地域の抱える課題の解決策を考え、実践することにより、地域づくりマインドを持った人材の育成と地域活性化への貢献を図っている。(香川)</p> <p>◎ 平成15年度文部科学省特色G Pに「6年一貫体制による保健医療福祉総合学習」が採択され、「保健医療福祉看護・介護論」等の総合保健福祉医療学関連科目を創設する等して、教養教育と連携した早期学習と統合型学習を行い、現場性と体験を重視したカリキュラムを策定し、地域医療教育を充実させている。(香川)</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省現代G Pに「地域連携型キャリア支援センターの新機軸」が採択され、キャリア関連科目の充実やキャリア懇談会の実施、キャリア・カフェの設置等により学生のキャリア意識の涵養を図り、自立的な活動が支援され、平成20年度文部科学省学生支援G P採択の「主体性の段階的育成支援システム(CPS)」に発展し、コミュニケーション能力やファシリテーション能力等の向上を目指す講座を受講した学生に一定の認証を行い、さらに実際の学生支援活動に参加した学生には上級の認定書を授与することにより、学生の主体性の段階的育成を支援している。(香川)</p> <p>◎ 平成20年度文部科学省「戦略的産学連携支援事業」に当該大学と徳島大学、鳴門教育大学、高知大学、四国大学、徳島文理大学、高知工科大学と共同による取組「『四国の知』の集積を基盤とした四国の地域づくりを担う人材育成」が採択され、「e-Knowledgeコンソーシアム四国」を設立し、各大学の特徴ある講義をe-learningコンテンツとして提供することにより教育基盤「四国の知」を構築している。(香川)</p> <p>○ 平成20年度文部科学省「大学教育の国際化加速プログラム(海外先進教育実践支援-教育実践型)」に「地域交流型実践教育の導入と国際授業交流 サポア大学の実践プロジェクト教育の導入と学生・教員の相互参加」が採択され、当該大学が幹事校として、日仏合計6大学間による教育研究に関する包括的な交流協定を結び、国際メカトロニクス研究教育機構(I OREM)を設立し、日仏両方で単位を与える事としてのe-learning構築の基本的枠組みについて合意し、開設に向け検討を進めている。(香川)</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省教員養成G Pに「研究推進校との協働による教員養成の高度化-公立校における先進的教育現場からの学びと大学院での研究省察を通して-」が採択され、教育学研究科「総合教育実践研究コース」の設置(平成20年度)につながっている。(香川)</p> <p>◎ 平成16年度文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム(実践的教育推進プログラム)」に「リーガルサービス情報ネットワーク」が採択され、法曹関係者との間で情報を相互に提供できる体制を構築し、「リーガル・クリニク」の選択必修化や「エクスターンシップ」の新設等、法律実務基礎科目を充実させている。(香川)</p> <p>◎ 平成16年度文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム(実践的教育推進プログラム)」に「産官連携による地域再生ケース教材開発」が採択され、産官連携による民間部門と公共部門のクロスする分野に関するケース教材(計30件)を開発している。(香川)</p> <p>○ 平成19年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に「地元経済団体と連携した、地域中小企業の中核人材のための能力向上プログラム」が採択され、商工会議所と連携して、地元の実務に精通している専門家による科目(平成19年度3科目)を開講するなど、地域に精通した中小企業の中核人材のための能力向上を図る教育プログラムの開発と実施を行い、四国四県への遠隔配信等により計152人が受講している。(香川)</p>		
<p>◎ 平成16年度文部科学省特色G Pに「障害児支援経験を通じた教員養成プログラム」が採択され、その成果に基づいてテキスト『特別支援教育と介護入門』の全面的な改訂作業を継続させている。(福岡教育)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成20年度文部科学省教育G Pに採択された「PBLを基軸とする工学教育プログラムー工学教育環境のトータルデザインと新しいスタンダードを目指してー」により、実践的技術者能力を涵養するための方策として、課題解決能力を養うPBL教育等を実施している。(九州工業)</li> <li>◎ 平成19年度文部科学省特色G Pに採択された「学生自身の達成度評価による学修意識改革ー学習成果自己評価シートをベースとする自己評価システムの構築ー」により、ポートフォリオを用いた学生自身の「学修自己評価システム」で学修の自己管理意識改革を進めている。(九州工業)</li> <li>◎ 平成18年度文部科学省現代G Pに採択された「地域環境再生のための地域支援型実習の展開ー参加型プログラムによる地域と技術者教育の活性化ー」により、社会と連携したフィールド型の授業科目を配置している。(九州工業)</li> <li>◎ 平成18、19年度文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育実践支援)」に採択された「国際汎用性と通用性のある情報技術者教育」により、欧米の大学の先進的な実情を調査し、PBL教育等に反映させている。(九州工業)</li> <li>◎ 平成19年度文部科学省大学院G Pに採択された「モジュール積み上げ方式の分野横断型コース」により、情報工学府では、学際的な知識と技能を習得することを目指したプログラムを開発し、教育成果が得られている。(九州工業)</li> <li>◎ 平成19年度文部科学省大学院G Pに採択された「グローバル研究マインド強化教育プログラム」により、生命体工学研究科では、国際マインド強化を図り豊かな国際感覚と幅広い専門知識を育成している。(九州工業)</li> <li>◎ 平成18年度文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ」に採択された「出稽古修行型の分野横断研鑽システム」により、生命体工学研究科では、研究室間の流動性が高まり、開かれた教育・研究環境を実現している。(九州工業)</li> <li>◎ 平成18年度文部科学省「先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」に採択された「次世代情報化社会を牽引するICTアーキテクト育成プログラム」により、情報工学府では実践的な教育を実施しており教育効果が得られている。(九州工業)</li> <li>◎ 平成20年度文部科学省「戦略的学術連携支援事業」に採択された「北九州学術研究都市連携大学院によるカーエレクトロニクス高度専門人材育成拠点の形成」により、生命体工学研究科では北九州市立大学大学院、早稲田大学大学院と共同プログラム(授業科目の開設・単位互換)を実施している。(九州工業)</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 平成20年度文部科学省教育G Pに採択された「創造的人材育成～誰でもクリエイター～」では、専門分野の知識・技術に加えてデジタル表現技術を身につけ、これからの高度情報化社会を創造できる人材を育成することを目的として特色ある取組を展開している。(佐賀)</li> <li>◎ 平成20年度文部科学省教育G Pに採択された「実践臨床医養成への問題基盤型学習の実質化」では、6年一貫の臨床実習、問題基盤型学習と症例基盤型学習のハイブリッド、学習者・教育者への支援環境の整備を進めている。(佐賀)</li> <li>◎ 平成15年度文部科学省特色G Pに採択された「市民参画「佐賀環境フォーラム」プロジェクト」では、学生と市民が共に学び、体験し、議論し、考察するという基本理念に基づいて、当該大学教授と学外講師(市民・企業・行政)によるオムニバス形式の講義、佐賀の豊かな二次的自然を体感する体験学習、自らの問題意識に基づいた調査・研究(ワークショップ)を実施し、支援期間終了後もワークショップ活動を通して市民と学生が協同して地域の様々な環境活動を展開している。(佐賀)</li> <li>◎ 平成16年度文部科学省現代G Pに採択された「ネット授業の展開」では、教養教育におけるネット授業開講科目を拡大し、支援期間終了後もネット授業を継続して実施している。(佐賀)</li> <li>◎ 「大学コンソーシアム佐賀」の活動を基盤として取り組む「知の拠点として地域をリードする大学間教育ネットワーク推進事業」が平成20年度文部科学省「戦略的学術連携支援事業」に採択されている。(佐賀)</li> <li>◎ 平成19年度文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」に採択された「発達障害と心身症への支援に強い教員の養成ー文化教育学部・医学部附属病院連携による臨床教育実習導入とカリキュラム開発ー」では、医学部附属病院小児科との協働を基軸に、県・市教育委員会と連携し、臨床教育実習と臨床教育演習を並行させることにより、理論と実践を統合した教育を展開している。(佐賀)</li> <li>◎ 平成21年度文部科学省大学院G Pに「高度な農業技術経営管理者の育成プログラム」が採択されている。(佐賀)</li> </ul>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 平成20年度に文部科学省教育G Pに採択された法学部の「学生主導型ゼミによる地域活性化人材の育成」では、学生主導のゼミ運営を維持しながら、適正なサポート体制を構築し、政策教育を通じた学士課程教育の質的向上を目指している。同じく平成20年度に採択された薬学部の「エコファーマを担う薬学人育成プログラム」では、難病患者、公害・薬害被害者、環境・衛生関連分野の研究者等との交流や講演会の実施、環境側面を考慮した実習の実施など、特色ある教育を展開している。(熊本)</p> <p>◎ 平成16年度に文部科学省特色G Pに採択された「学習と社会に扉を開く全学共通情報基礎教育」では、情報基礎教育の充実と徹底、学内e-learning普及推進、高大連携への活用、JICA等を通じて国際社会への貢献等を行っている。平成18年度に採択された「工学教育から発信する大学教育の質保証－ホジティブ・フィードバック型の組織的質保証－」では、質保証のためのシステムを構築している。(熊本)</p> <p>◎ 平成18年度に文部科学省現代G Pに採択された教育学部の「e1こころ学習プログラムの開発－教員志望のすべての学生にこころの健康一次予防力を養成するe-Learning Programの開発」では、全学の教員志望学生等を対象に大人数対象非同期e-learningコースを実施している。(熊本)</p> <p>◎ 平成19年度に文部科学省大学院G Pに採択された社会文化科学研究科の「IT時代の教育イノベーション育成プログラム」では、国際産学共同開発による「ストーリー型カリキュラム」の導入、国際連携による「eポートフォリオ」活用教育改善システムの開発、グローバル化の先端を行く外国大学との戦略的連携による国際遠隔共同授業の開発、高等教育・企業内教育連携による「学びと仕事の融合学習」の開発を目指して教育を推進している。同じく平成19年度に採択された自然科学研究科の「大学院科学技術教育の全面英語化計画」の成果として、多数の学生と教員をそれぞれ国際会議での論文発表と海外大学での講義の提供のため海外に派遣している。同じく平成19年度に採択された薬学教育部の「創薬研究者養成プログラム」では、新たなコースを導入し、既存のコースと併せて、実践的な創薬研究者を養成する大学院プログラムを展開している。平成20年度に採択された医学教育部の「臨床・基礎・社会医学一体型先端教育の実践」では当該教育部内のコースを連携させ、先端医学教育のより効果的な実現を目指している。(熊本)</p> <p>◎ 平成17年度に文部科学省「魅力ある大学院教育 イニシアティブ」に採択された薬学教育部の「DDSスペシャリスト養成プログラム」では、支援期間終了後に同プログラムの経験を生かし、社会の求める実践的な創薬研究者育成のためのコースを新設している。平成18年度に採択された自然科学研究科の「異分野融合能力をもつ未来開拓型人材育成」では、支援期間終了後に創造性トレーニングの科目作成、異分野を含む国内外のインターンシップの枠拡大、国際会議発表を促進する教育システムの構築等の取組が行われている。同じく平成18年度に採択された医学教育部の「エイズ耐圧をめざした研究者養成プログラム」では、英語による講義、少人数制実習コースワーク、エイズ臨床体験演習等を行っている。(熊本)</p> <p>◎ 平成17年度に文部科学省教員養成G Pに採択された教育学研究科の「不登校の改善・解決に資する教育力の養成－大学院教育における系統的カリキュラムの創出と試行実践－」では、不登校の改善・解決に資する教育力を育成するための講義・演習をカリキュラムに導入している。(熊本)</p> <p>◎ 平成20年度に文部科学省「戦略的産学連携支援事業」に採択された自然科学研究科の「スーパー連携大学院構想：産学官の広域連携を通じたイノベーション博士人材の育成」(申請校：電気通信大学、連携校：熊本大学ほか)では、国公私立大学、地方自治体、産業界の連携により「スーパー連携大学院」構想を具体化する取組を開始している。(熊本)</p> <p>◎ 平成19年度に文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」に採択された「九州がんプロフェッショナル養成プラン」(申請担当大学：九州大学、共同大学：熊本大学ほか)では、薬物治療専門医や放射線治療専門医などを養成するプログラムとして大学院4年コースと、基盤学会の認定医・専門医ががん治療専門医になるための短期研修・インテンシブコースの2つを設定し、多くのがん専門医輩出を目指している。(熊本)</p> <p>◎ 平成18年度に文部科学省「先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」に採択された自然科学研究科の「次世代情報化社会を牽引するICTアーキテクト育成プログラム」(申請大学：九州大学、連携大学：九州工業大学、宮崎大学、熊本大学)では、世界最高水準のIT人材育成に向けた成果が上げられつつある。(熊本)</p> <p>◎ 文部科学省グローバルCOEプログラムに3件採択され、高水準の教育研究を展開している。大学院医学教育部医学専攻の発生・再生医学研究者育成コースでは、平成19年度に採択された「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」の中核的組織である「リエゾンラボ」の理念を活かし、学生と教員が一体となった教育研究コミュニケーションを展開し、コース独自の授業科目はすべて英語で開講されている。平成20年度に採択された「衝撃エネルギー工学グローバル先導拠点」では、衝撃エネルギーの科学と工学を基礎とし、専門の枠を超えた幅広い見方ができ、かつ豊かな創造性とグローバルな視野を持つ先導的人材の育成を目指している。同じく平成20年度に採択された「エイズ耐圧を目指した国際教育研究拠点」では、世界レベルで活躍できる基礎研究者・臨床研究者の体系的な育成に努めている。(熊本)</p> <p>◎ 平成19年度に文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」に採択された「ローセンサーを活用した臨床教育の高度化」により、新たに法律相談電子カルテシステムを開発するとともに、司法過疎地において無料法律相談事業を展開し、臨床教育の高度化と教育効果の向上を図っている。さらに、同年度採択の「九州・沖縄連携実習教育高度化プロジェクト－大学を超えた協働と競争による新たなシナジーを目指して－」(申請校：九州大学)及び「実務技能教育指導要綱作成プロジェクト」(申請校：名古屋大学)や平成20年度に文部科学省「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」に採択された「法科大学院を通じた研究者等の連携－貫教育」(申請担当校：九州大学)を実施し、教育連携を展開している。(熊本)</p> <p>◎ 平成16年度に文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に採択された「サイバー・クリニック・システムの構築－21世紀の司法を担う法曹養成に向けて－」では、臨床教育教材の標準化と充実を図ってきた。同じく平成16年度に採択された「九州三大連携法曹養成プロジェクト」(申請校：九州大学)では、遠隔講義システム、実務トレーニング・システム、連携三大講義支援システムを開発・導入し、教育内容・教育方法の充実と高度化を図っている。同じく平成16年度に採択された「実務技能教育教材共同開発共有プロジェクト」(申請校：名古屋大学)では、プロジェクト基幹校として、法廷教室に法廷収録システムを整備している。(熊本)</p> <p>◎ 平成21年度に文部科学省「理教学生応援プロジェクト」において「高・大・大学院連携型理教学生ステップ・アップ・プログラム」が、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」において「学習成果に基づく学士課程教育の体系的構築」がそれぞれ採択されている。(熊本)</p> <p>◎ 平成21年度に文部科学省大学院G Pにおいて「イノベーション創出のための大学院教養教育」が採択されている。(熊本)</p>		
<p>◎ 平成20年度文部科学省教育G Pに、「学問探検ゼミを核とした高大接続教育－教員間および学生生徒間の連携活動による「学びは高きに流れる」教育体制の構築－」が採択され、高等学校と大学の教員と生徒・学生が同じ場に集う授業「学問探検ゼミ」等、5つの高大接続教育事業に取り組んでいる。(大分)</p> <p>◎ 平成20年度文部科学省「戦略的産学連携支援事業：総合的連携型(地元型)」に、「地域連携研究・留学生支援・教育連携を柱とする地方における高度人材養成拠点の構築」が採択され、地域における中核的総合大学として大学間連携に取り組んでいる。(大分)</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育実践支援)」に、「国際・熱帯感染症実地教育プログラムの構築－フィリピン・サンラザロ病院での実績を活用したアジアの一員としての医療人育成－」が採択され、フィリピン国立サンラザロ病院(SLH)へ、これまでに8回の学生派遣を行っており、派遣学生は国際的な視点からの医療(特に感染症医療)に対する理解を深め、医療人としてモチベーションを高めるきっかけになっている。支援期間終了後も、学長裁量経費により、活動を継続させている。(大分)</p> <p>◎ 平成20年度文部科学省「戦略的産学連携支援事業：教育研究高度化型」に、「スーパー連携大学院構想：産学官の広域連携を通じたイノベーション博士人材の育成」が当該大学を含めた9大学で採択され、スーパー連携大学院を核とした全国的な産学官の広域連携ネットワークの構築に取り組んでいる。(大分)</p> <p>◎ 平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に、「水辺の地域体験活動による初年次教育の展開」が採択されている。(大分)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 平成18年度文部科学省「先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」に「高度なソフトウェア技術者育成と実プロジェクト教材開発を実現する融合連携専攻の形成」(申請校:大阪大学)が採択され、関西圏9大学が共同で融合連携型の専攻を構築しており、平成19年度には、京都大学等との共同によるプロジェクト(当該大学が申請校)「社会的ITリスク軽減のための情報セキュリティ技術者・管理者育成」が採択され、3つの科目群(基礎科目群、先進科目群、実践科目群)を開設している。(奈良先端)</p> <p>◎ 平成17年度文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに「未来を切り拓く情報科学人材育成コア」、 「フロンティアバイオ教育プログラムの構築」が、平成18年度には「物質科学の先端融合領域を担う研究者の育成」が採択され、支援期間終了後はそれぞれを発展させ、平成19年度文部科学省大学院GPに「創造力と国際競争力を育む情報科学教育コア」、 「2コース制によるバイオ人材育成プログラム」が採択されている。(奈良先端)</p> <p>◎ 平成21年度文部科学省大学院GPに「新領域を切り拓く光ナノ研究者の養成」が採択されている。(奈良先端)</p> <p>◎ 平成14年度文部科学省21世紀COEプログラムに「フロンティアバイオサイエンスへの展開」、 「ユビキタス統合メディアコンピューティング」が採択され、その成果を大学院課程の教育に活用している。(奈良先端)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省グローバルCOEプログラムに「フロンティア生命科学グローバルプログラム-生物の環境適応と生存の戦略-」が採択され、海外の連携拠点校との連携講座設置など、国際ネットワークを形成している。(奈良先端)</p>		
<p>◎ 平成17年度文部科学省特色GPに採択された「医学部における実践的な医療安全教育」では、医療安全意識の向上を図るため、医療安全、倫理、コミュニケーションを統合したカリキュラムとして、特別養護老人ホーム等での体験学習や医療機器の取扱等を重視した実践的な医療安全演習等を実施した。これらのカリキュラムは学生からの評価が高く、学園祭で医療安全に関するシンポジウムを学生自ら開催している。事業終了後も、本事業により導入された授業については大部分が継続して行われている。(横浜市立)</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省現代GPに採択された「学生が創る地域の子ども健康プロジェクト-医学生と看護学生の連携による取組-」では、医学生と看護学生がチームを組み、地域に出て、地域の子どもたちに「命の大切さ」を伝えることを目的として、横浜市内の小中学校での訪問授業・健康生活キャンプの実施や、学生が主体となり子ども向けの応急手当に関する健康教育教材を作成した。本事業における学生へのアンケートでは、約7割の学生がチームワークを実践的に学びとることができたと回答している。訪問授業は事業終了後も継続して行われている。(横浜市立)</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに「臨床体験推進リーダー養成プログラム」が採択され、主な取組として、新たに教授を招聘して臨床試験学を設置し、臨床研究に特化した科目を開設し、事業期間終了後も引き続き実施している。加えて、FDAのCBERとの包括協定の締結やPMDAとの連携大学院協定締結にも取り組んでいる。(横浜市立)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」に採択された「横断的ながん医療の人材育成と均てん化推進」(基幹校は東京大学)では、次世代の臨床研究の指導者養成、高度かつ集学的ながん専門医療を担う医師やメディカル系の育成を目的とした教育課程を構築し、各専門医が一堂に集まり治療法について包括的に議論する場であるキャンサーボードでの実地修練等を行っている。(横浜市立)</p> <p>◎ 平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的連携支援事業」に「横浜文化創造都市スクールを核とした都市デザイン/都市文化の担い手育成事業」(代表校は横浜国立大学)が採択され、当該大学のほか6大学によるコンソーシアムが形成されている。(横浜市立)</p> <p>◎ 平成15年度文部科学省21世紀COEプログラムに採択された「細胞極性システム研究に基づく未来医療創成(からだの形づくりの仕組みの解明から病気の克服へ)」では、基礎生物学の成果を臨床医学に応用するための教育研究体制の整備に向けた取組を行い、博士課程学生の学力向上を目的とした英語発表能力向上プログラムや、細胞極性国際シンポジウム、国際医療ICTシンポジウム等を開催している。(横浜市立)</p>		
<p>◎ 平成18年度文部科学省現代GPに採択された取組「学生の自立を促す統合型キャリア推進プラン」として、当該大学OBや企業経験者等を外部講師として招いた講義や企業見学などのキャリア教育を行っている。(富山県立)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省現代GPに採択された「富山型環境リテラシー教育モデルの構築」では、全学横断的な環境教育に加えて、学生が環境問題に興味や関心を深めるための参加型課外活動を実施している。(富山県立)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省大学院GPに採択された「環境調和型高度もづくり能力の育成」を展開し、専門科目の高度化を進めると同時に、高度で共通基盤的な専門基礎科目を新設している。(富山県立)</p>		
<p>◎ 平成20年度文部科学省「戦略的連携支援事業(教育研究高度化型)」に採択された、「地域公共人材のための京都市内における教育・研修プログラムと地域資格認定制度の開発」に関し、海外調査、国内調査、PD検討準備委員会といった活動を開始した。(京都市立)</p> <p>◎ 平成20年度文部科学省「戦略的連携支援事業(総合的連携型(広域型))」に採択された「京都発国公立大学ヘルスサイエンス系共同大学院の創設と総合的連携による大学力強化」に関し、連携大学による推進協議会と、「共同大学院」、「教養教育」、「専門教育」、「研究等」の各部会を設置し事業を実施している。(京都市立)</p>		
<p>◎ 平成20年度の科学技術振興調整費「イノベーション創出若手研究人材育成」に採択された「地域・産業牽引型人材育成プログラム」の下で、産学協同高度人材育成センターを設置し、基礎研究能力と産業応用志向を高いレベルで調和させた研究者の育成に取り組んでいる。(大阪府立)</p> <p>◎ 平成20年度の文部科学省教育GPに採択された「販売現場に密着した問題発掘型スタディーズPOSデータ分析による実ビジネス隣接型学習プログラム-」では、専門基礎教育から専門教育へのブリッジとなるような販売現場に密着した問題発掘型教育プログラムを推進している。(大阪府立)</p> <p>◎ 平成19年度の文部科学省特色GPに採択された「大学初年次数学教育の再構築」では、統一教科書の作成、達成目標の統一、質問受付室、再履修クラス、e-learning教材による授業時間外のサポート等初年次数学教育の充実を図っている。(大阪府立)</p> <p>◎ 平成17年度の文部科学省現代GPに採択された「地域学による地域活性化と高度人材養成」の実績を基礎に、全学の学生を対象に副専攻「堺・南大阪地域学」を展開している。(大阪府立)</p> <p>◎ 平成17年度の文部科学省現代GPに「看護実践能力の獲得を支援するeラーニング-臨地実習用ユビキタス・オン・デマンド学習支援環境の構築-」が採択され、e-learning用の教材を作成し、支援期間終了後も引き続き授業や実習に活用している。(大阪府立)</p> <p>◎ 平成20年度の文部科学省大学院GPに「ヘテロ・リレーションによる理学系人材育成」が採択され、研究教育空間に国際・地域といったヘテロな空間を混在させ、専門力に人間力を上積みした理系人材の育成に取り組んでいる。(大阪府立)</p> <p>◎ 平成17年度の文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに「EBCP志向の博士前期・後期課程リンケージ」プログラムが採択され、根拠に基づいた臨床実践EBCPの知の探究者、文化的差異への鋭敏性を有する若手研究者の育成に取り組んでいる。(大阪府立)</p> <p>◎ 平成19年度の文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」に6大学連携オンコロジーチーム養成プラン「近畿圏のがん医療水準の向上と均てん化を目指した国公立大連携プロジェクト」が採択され、「職種横断的ケーススタディ演習」や「SPを用いた職種横断的臨床課題演習」を開講している。(大阪府立)</p>		
<p>◎ 生命理学研究科では、平成14年度に文部科学省21世紀COEプログラムに「構造生物学を軸とした分子生命科学の展開」が、平成19年度に文部科学省グローバルCOEプログラムに「ピコバイオロジー:原子レベルの生命科学」が採択され、「構造生物学のわかる細胞生物学研究者と細胞生物学のわかる構造生物学研究者」の育成に取り組んでいる。(兵庫県立)</p> <p>◎ 看護学研究科では、平成15年度に文部科学省21世紀COEプログラムに「ユビキタス社会における災害看護拠点の形成」が採択され、災害看護カリキュラムの開発を行い、ボランティアとしての派遣、災害支援活動などを通じた教育を行っている。(兵庫県立)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 平成18年度に文部科学省現代G Pに採択された保健福祉学部の「実践的チームガバナビリティー育成教育—領域横断カリキュラムと臨床メンターを援用した実践型キャリア教育の試み—」では、保健・医療・福祉の3領域の学生の協働により、異分野に対する理解と尊敬の心を育むとともに、チームマネジメント能力の育成を図っている。(岡山県立)</p> <p>◎ 「岡山オルガノン」の構築—学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—(代表校岡山理科大学)が、平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に採択されている。(岡山県立)</p>		
<p>◎ 平成21年度に文部科学省の科学技術振興調整費「戦略的環境リーダー育成拠点形成」に採択された「戦略的水・資源循環リーダー育成」を活用して、「JICAとの間で「JICA長期研修員受入に関する覚書」を締結し、10月に3人の学生を受け入れている。(北九州市立)</p> <p>◎ 平成16年度に文部科学省現代G Pに採択された「地域密着型環境教育プログラムの進化と展開」において、学生の自発的・能動的な学習能力の育成に取り組んでおり、その取組を発展的に展開して文部科学省教育G Pに平成20年度に採択された「地域密着型環境教育プログラムの戦略的展開—人間力育成プログラムの深化と学外・国際連携の充実化—」において、①1年次の人間力育成プログラムの充実化、②フィールドワーク型環境教育の高度化と異文化・異分野交流の促進、③社会活動支援システムの構築、の取組を実施している。(北九州市立)</p> <p>◎ 学研都市内の3大学院(当該大学、九州工業大学、早稲田大学)による「北九州学術研究都市連携大学院によるカーエレクトロニクス高度専門人材育成拠点の形成」が平成20年度文部科学省「戦略的連携支援事業」に採択され、平成21年度から連携大学院カーエレクトロニクスコースを開設し、技術革新を主導する技術者の育成に取り組んでいる。(北九州市立)</p> <p>○ 地域創生学群では、平成21年度の文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に採択された「地域創生を実現する人材育成システム」を活用して、北九州市を背景にして「地域創生力」を備えた人材の育成に取り組んでいる。(北九州市立)</p>		
<p><b>平成22</b></p> <p>◎ 平成20年度文部科学省教育G Pに採択された「大動物総合臨床獣医学教育プログラム」では、「総合臨床実習」において産業動物獣医師を養成するためのカリキュラムを見直すなど、カリキュラム補強と再編に向けた取組を行っている。(帯広畜産)</p> <p>◎ 平成17年度文部科学省現代G Pに採択された「国際貢献を担う人材育成のための連携教育」では、新たに畜産国際協力ユニットを設置し、ユニットの展開教育科目として、「海外実習」、「国際協力インターンシップ」、「国際協力研修実習」、「国際協力ディベート論」の4科目を新たに開設し、畜産学の知識と技術を基盤にして国際的に活躍できる人材の育成に努めている。(帯広畜産)</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省特色G Pに採択された「「全学農畜産実習」を通じた総合的導入教育」の1年次生を対象とした「全学農畜産実習」においては、体験型授業を取り入れ、獣医農畜産に関する幅広い実習を行い、専門課程への導入の位置付けとなっている。(帯広畜産)</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省「「魅力ある大学院教育」イニシアティブ」に採択された「食の安全に関わる高度専門家育成プログラム」において、実学を重視した教育実質化として、4学期制、講義・実習の一体化による総合型授業、ワークショップ企画運営、海外でのインターンシップ演習等を実施し、支援期間終了後も継続している。(帯広畜産)</p> <p>◎ 平成20年度文部科学省大学院G Pに採択された「食の安全性確保の国際標準化による実践教育」において、「食の安全性確保」のための「国際標準」に対応する教育内容に改編し、実践教育を行うなど、社会のニーズにこたえる高度専門職業人の育成を目的とした教育を実施している。(帯広畜産)</p> <p>◎ 平成22年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に「ピアサポートで支える補習教育と初年次教育」が採択されている。(帯広畜産)</p> <p>◎ 平成14年度に文部科学省21世紀COEプログラムの生命科学分野に採択された「動物性蛋白質資源の生産向上と食の安全確保—特に原虫病研究を中心として—」を原虫病研究センターを中核として推進し、研究成果の社会への積極的な発信に努め、国際研究会、シンポジウム等を開催したほか、同プログラムの最終年度である平成18年度には、教育研究成果の総括を行い、平成19年4月に成果報告シンポジウムを開催している。また、プログラムの最終目標である大学院博士課程の設置を平成18年度に達成している。(帯広畜産)</p> <p>◎ 平成20年度に「「アニマル・グローバル・ヘルス」開拓拠点」が文部科学省グローバルCOEプログラムの「学際・複合・新領域」分野に採択され、文部科学省21世紀COEプログラムの成果を基盤に畜産衛生学専攻を中核として、獣医学と畜産学が融合した「国際畜産衛生学」の世界的中核教育研究拠点形成を目指し、新たに構築した23の機動的な教育研究単位「セルユニット」を編成してプログラムを推進している。(帯広畜産)</p>		



基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 平成20年度文部科学省教育G Pに「筑波スタンダードに基づく教養教育の再構築－世界水準の教養教育を目指す全学的取組」が採択され、カリキュラム改革を実施し、学生参加型授業を展開している。(筑波)</p> <p>◎ 文部科学省特色G Pにおいて、平成15年度には「先進的な医学教育を推進する支援システム」、平成17年度には「アート・デザイン教育による3 C力の育成」、平成18年度には「プロジェクト実習による高度専門技術者養成」、平成19年度には「「チーム医療実践力」育成プログラム－人間性・協調性を兼ね備えた医師の養成を目指して－」の計4件が採択されている。例えば「「チーム医療実践力」育成プログラム－人間性・協調性を兼ね備えた医師の養成を目指して－」では、医学・看護・医療科学類合同プログラム「ケア・コロキウム(チームワーク演習)」を展開し、専門職の役割、チームや連携・協働に対する理解を高めるなど成果を上げている。(筑波)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成17年度には「新しい課題対応型体験学習プログラムの開発－地域連携によるマイスター育成講座への運営参加を通して－」、平成18年度には「地域ヘルスプロモーションプログラム－住民に対する予防・健康教育を担える医師養成のための体系的な教育プログラム－」及び「専門教育と融合した全学生へのキャリア支援－キャリアポートフォリオと人的ネットワークの活用－」が、平成19年度には「異分野学生の協働によるコンテンツ開発演習－異分野学生のMatch Makingによる協働型コンテンツ開発演習プログラム－」の計4件が採択され、実施した取組を支援期間終了後の展開につなげている。(筑波)</p> <p>◎ 文部科学省大学院G Pにおいて、平成19年度には「新領域開拓のための人事学異分野融合型教育」及び「達成度評価システムによる大学院教育実質化」が、平成20年度には「ICTソリューション・アーキテクチャ育成」及び「個性とキャリアを繋ぐ医学教育リネサンス」の計4件が採択され、大学院教育の実質化、国際化に取り組んでいる。(筑波)</p> <p>◎ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブにおいて、平成17年度には「大学・企業間インタラクティブ研究者の養成」及び「世界基準を体感する武者修行応援プログラム」が、平成18年度には「先導的・国際的な「こころ」の科学者の育成」及び「実践IT力を備えた高度情報学人材育成」の計4件が採択され、大学院教育の実質化に取り組み、支援期間終了後の展開につなげている。(筑波)</p> <p>◎ 文部科学省教員養成G Pにおいて、平成17年度には「広域大学間連携による高度な教員研修の構築－「教育の今日的課題」解決に向けた新研修システムの実現－」、平成18年度には「高度な授業力育成のための授業開発」の計2件が採択され、初等中等教育教員の教育力・指導力育成のための取組を展開し、支援期間終了後も継続している。(筑波)</p> <p>◎ 文部科学省21世紀COEプログラムにおいて、平成14年度には「複合生物学生応答機構の解析と農業の高度利用」及び「未来型機能を創出する学際物質科学の推進」、「健康・スポーツ科学研究の推進」が、平成15年度には「こころを解明する感性科学の推進」の計4件が採択され、これらの研究成果を大学院教育に活かしている。(筑波)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省グローバルCOEプログラムに「サイバニクス：人・機械・情報系の融合複合」が採択され、英語による発表、討議を義務付けたケーススタディ型学習や立案から事後評価までの全課程を体験するプロジェクト研究等、新しい大学院教育方法を実践するなど大学院教育に活かされ、複眼的視野と最先端の実問題を解決する能力を備えた人材育成を目的とした専修プログラムを継続させるための組織として、平成22年6月には教育イニシアティブ機構が設置されている。(筑波)</p> <p>◎ 平成17年度文部科学省「派遣型高度人材育成協同プラン」に「大学と企業とで育てる創薬化学高度人材」が、平成18年度文部科学省「先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」に「高度IT人材育成のための実践的ソフトウェア開発専修プログラム」が、平成19年度文部科学省「サービス・イノベーション人材育成推進プログラム」に「顧客志向ビジネス・イノベーションのためのサービス科学に基づく高度専門職業人育成プログラムの開発」がそれぞれ採択され、企業と連携したインターンシップ実習実施や、実践的なカリキュラムの構築等、大学院教育に活かしている。(筑波)</p> <p>◎ 平成17年度文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」において、法曹専攻では「夜間社会人学生用実践的学習支援システム－高速ネット通信活用によるリーガルクリニック支援システムと学外学習補助システムの開発－」、国際経営プロフェッショナル専攻では「ビジネススクール教育の質保証システム開発」が採択され、ネットワーク通信を利用した各種システムの開発による社会人学生等の学習における時間的制約の解消や、経営系専門職大学院の教育プログラムの持続的改善及び教育の質の改善に取り組み、支援期間終了後も継続している。(筑波)</p>		
<p>◎ 平成20年度文部科学省教育G Pに採択された「特別支援教育時代の教員養成システムの開発－客観的なアセスメントと指導計画の作成できる小中学校等の教員養成を目指して－」では、特別支援教育を専門としない学生を主たる対象とし、特別支援教育について基本的な知識・技能を持てるようになるよう、授業と教育実習の充実・改善に取り組んでいる。また、教員養成課程全学生の必修科目「障害児の発達と教育」(1年次)において、アセスメントを実際に体験する授業や個別の指導計画の作成を体験する授業を取り入れるなどとともに、特別支援教育の視点を持った教育実習の実現のため、附属学校での教育実習時に、各校の特別支援教育コーディネータからの特別支援教育に関する説明の実施とその充実(教材開発等)を図っている。(東京学芸)</p> <p>◎ 平成20年度文部科学省教育G Pに採択された「小学校教員養成のためのものづくり教育開発」では、国内外の先行事例調査の結果等も活用しつつ、平成22年度開設の初等教育教員養成課程のものづくり教育選修のコアとなる科目のカリキュラムを作成している。また、学生がものづくり教材の開発に自主的に取り組むことができる教育条件整備を進めている。(東京学芸)</p> <p>◎ 平成17年度文部科学省現代G Pに採択された「持続可能な社会づくりのための環境学習活動－多摩川バイオリージョンにおけるエコミュージアムの展開－」では、「プロジェクト学習科目」、「総合演習」において、地域の持続可能な社会づくりと関連付けながら、学生による地域調査や地域での教育実践活動に取り組んでいる。また、当該プロジェクトによる支援により、関連科目においても外部講師を招聘した地域での体験学習、地域調査を展開した授業等を実施している。(東京学芸)</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省現代G Pに採択された「教員養成のためのモジュール型コア教材の開発－大学連携による臨床・実践・IT領域e-Learning用教材の共同開発－」では、当該大学を含めた5大学が連携し、現在の教育現場の様々なニーズに対応した内容を教えるために役立つ教材を開発している。また、開発された教材の活用について、「情報社会と教育」等の授業で活用している。(東京学芸)</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省教員養成G Pに採択された「教員養成メンタリング・システムの開発－幼稚園教員養成・教員研修の融合－」では、白梅学園大学と共同で、長期にわたる教育プラクティスとメンタリングを通して、学生と現職教員が共に教育の今日的課題に対応する高度な力量を形成することのできるシステムの開発に取り組んでいる。取組の成果は、「幼児心理学演習Ⅲ」に反映し、幼稚園のフィールドでメンタリングを受けることを通じて、保育の過程に即した課題と今日的な課題への対処についての応用的な学習が行われている。(東京学芸)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」に採択された「確かな理科授業力のある小学校教員の養成」では、理科を専攻しない学生のための実験・観察力の育成を重視した必修授業科目「理科研究」(3年次)を行うとともに、「初等理科教育法」(2年次必修)の内容を「理科研究」とのつながりを重視したものに改善し、小学校教員養成課程の学生が理科に対する苦手意識を持たなくなるようなカリキュラムとしている。従来のカリキュラムを受けていた学生については、小学校教員採用試験合格者等を対象に実験・観察力を重視した理科特別講座を実施している。また、学生の近隣公立小学校における「理科授業ボランティア」理科支援員の体験について、コーディネータの配置等により支援する取組を行っている。(東京学芸)</p> <p>◎ 平成20年度文部科学省「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」に採択された「実践的指導力育成を保証する評価指標の開発」では、教職大学院における教育プログラムの評価基準の開発に取り組み成果を上げている。(東京学芸)</p>		
<p>◎ 平成16年度に文部科学省の現代G Pに採択された「取手アートプロジェクトと地域文化の活性化」は、「取手アートプロジェクト」として、美術学部先端芸術表現科、音楽学部音楽環境創造科が中心になり、行政や市民と一体となって取り組む、授業の一環として発展している。(東京芸術)</p> <p>○ 平成21年度に文部科学省の「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に「横浜文化創造都市スターを核とした都市デザイン/都市文化の担い手育成事業」が、横浜国立大学等と共同で採択され、現在取り組みな中である。(東京芸術)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 文部科学省特色G Pにおいて、平成16 年度に採択された「学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト」では、地域からの制作依頼を授業課題として取り入れ、履修学生の制作意欲の向上、地域連携の誘発等の効果が上がっている。(富山)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成16 年度に採択された「「炉端談義」方式による地場産業活性化授業—地域と一体となった授業計画・実施・評価委員会によるものづくり教育—」では、地場産業関係や自治体等と大学間の連携を通じて、地場産業振興に効果的に寄与できる授業を展開して、伝統工芸品の創造を目指す人材の育成を行っている。(富山)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成17 年度に採択された「非言語と言語の融合による地域国際化教育—世界に開かれた高岡まちづくり—」では、デザイン、ビジネス系の講義、実習を融合した教育を通して、学生と地域が協調し、世界共通仕様の「高岡グリーンマップ」を作成することにより、地域資源を認識・発信する能力と国際感覚の向上に成果を上げている。(富山)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成19 年度に採択された「出会い・試し・気づき・つなぐ芸術文化教育—ものに語らせる連鎖型創造授業—」では、地域と大学の連携によるコラボレーション授業を実施し、またその過程や成果を可視化するなどの取組を行い、デザインプレゼンテーションや空間デザイン(家具)展示等を実施している。(富山)</p> <p>◎ 文部科学省「戦略的連携支援事業(総合的連携型(広域型))」において、平成20 年度に採択された「地域人材育成に向けたSRM手法による教育の質保証」では、富山県内高等教育機関等で構成する富山県大学連携協議会の下で、教育の質保証及び教育サービスへの満足度等をマーケティングリサーチし、分析結果を各機関にフィードバックして学生の教育への満足度を高めるための教育改革富山大学に資している。(富山)</p> <p>◎ 文部科学省「ものづくり技術者育成支援事業」において、平成19 年度に採択された「製品開発体験実習による実践のものづくり技術者育成」では、即戦力の技術者を育成するため「製品開発体験実習」の開催及び「製品開発セミナー」の実施により、基礎力・実践力の向上に成果を上げている。(富山)</p> <p>◎ 文部科学省教員養成G Pにおいて、平成18 年度に採択された「授業カンファレンスを用いた学級指導力育成」では、現職教員も含めた大学院生に高度な実践的指導力を養成するとともに、附属学校と連携の下、実践的指導力育成に向けた授業改善への活用等の成果を上げている。(富山)</p> <p>◎ 文部科学省「日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業」において、平成22 年度に「和漢薬領域を基盤とした高度職業人育成事業」が採択されている。(富山)</p> <p>◎ 文部科学省21 世紀COEプログラムにおいて、平成15 年度に採択された「東洋の知に立脚した個の医療の創生」では、国際共同研究及び国際的人材育成を強化する基盤を基に、医学薬学教育部博士課程に東西統合医学専攻が設置され、東洋医学と西洋医学の両方の知識を備え世界の医学・医療をリードできる複眼的人材を育成することに成果を上げている。(富山)</p>		
<p>◎ 平成20年度、文部科学省教育G Pに「模擬学校による教育実践力向上モデルの開発」が採択され、平成19年度文部科学省「教員養成改革モデル事業」の「プラクティクススクールによる総合的力量的形成とその明示的な確認に資する事業」で試行した模擬学校に、大学低年次及び高年次の学生が取り組んでいる。(琉球)</p> <p>◎ 平成17年度、文部科学省医療人G Pに「離島医療人養成特化教育プログラム」が採択され、離島に貢献する医療人としての自覚・意識・意欲を持った医師を早期から発掘、専門医の育成、離島医療の中核として貢献すること、また、特定診療科の専門医の減少や地域偏在により不足している専門医(指導医)を県内外から広く募ることを目指し、医学科4年次全学生の離島医療実習を行っている。(琉球)</p> <p>◎ 平成19年度、文部科学省医療人G Pに「臨床研究専門医と上級CRC養成プログラム」が採択され、本邦で不足している臨床研究専門医、これを支援する専門看護師、薬剤師の育成、医師、医学生への臨床試験に関する教育、研修を行い、臨床研究実施環境を整え、臨床試験に関する医学教育を体系化している。(琉球)</p> <p>◎ 平成20年度、文部科学省「大学院連携型高度医療人養成推進事業」に「多極連携型専門医・臨床研究医育成事業」が、平成21年度、同省「周産期医療環境整備事業」に「周産期医療専門医育成プログラム」が採択され、事業を進めている。(琉球)</p> <p>◎ 平成19年度、文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」に「生きる教師力を育む特別支援学校教員養成—オンラインポートフォリオによる理論・実践の調和と個別的学修プログラムの構築」が採択され、鹿児島大学、鹿児島県、沖縄県教育委員会と連携して、大学教員、附属学校教員、大学院生からなるコーチングチームと教育委員会、公立学校との連携により、ポートフォリオを活用しつつ、学部生及び大学院生を教育している。(琉球)</p> <p>◎ 平成19年度、文部科学省「心身ともに豊かな健康・長寿のパラダイム構築に資する人材養成」に「大学院保健学研究科保健学専攻での人材養成プログラムの充実」が採択され、アジア・太平洋地域の専門家を招いて、「アジア・太平洋地域の保健医療」の講義を開講している。(琉球)</p> <p>◎ 平成16年度、文部科学省21世紀COEプログラムに「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析—アジア太平洋域における研究教育拠点形成—」が採択され(理工学研究科・理学系)、研究教育支援プログラムによって大学院生の国際交流・共同研究・情報発信が飛躍的に活発となり、発表論文も増加している。(琉球)</p> <p>◎ 平成18年度、経済産業省「産学共同実践的IT教育訓練基盤強化事業ETSS準拠通信システム開発教育訓練事業」に「大学院における組み込みソフトウェア開発エンジニアの育成」が採択され、大学院博士前期課程の「実践的な組み込みソフトウェア開発エンジニア」育成のプログラムで、ETSS(Embedded Technology Skill Standards)ベースのモデルカリキュラム(産学連携による教育訓練プログラム)を策定し、博士前期課程の工学系学生9人が受講している。(琉球)</p>		
<p>◎ 平成20 年度、文部科学省グローバルCOEプログラムに「東アジアの開発戦略と国家建設の適用可能性」の拠点形成計画が採択され、平成15 年度に文部科学省21世紀COEプログラムに採択された「アジアの開発経験と他地域への適用可能性」で研究拠点を形成していたベトナムに加えて、新たにエチオピア及びギニアにも拠点を設け、日本側の研究者と現地の行政官・研究者・学生等からなる政策研究ネットワークを構築・強化している。(政策研究)</p>		
<p>◎ 平成15年度文部科学省特色G Pに採択された「先進的コンピュータ理工学教育」では、先進的コンピュータ教育と体系的カリキュラムの工夫、徹底した英語教育、優れたコンピュータ利用環境の整備等を進めており、その実施後も継続・発展させている。(会津)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省現代G Pに採択された「ベンチャー体験工房「会津IT日新館」—地域ニーズに対応したITベンチャー起業家精神育成のための工房型教育—」では、「ベンチャー基本コース」や「ベンチャー体験工房」を開講し、体験工房の学生に地域企業でのインターンシップを実施するなど、イノベーションに挑戦する精神と技術力を持つ創業意識の高い若手人材の育成を目指している。(会津)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省大学院G Pに採択された「創造工房とアリーナに基づく革新的IT教育」では、ソフトウェア開発アリーナ、研究課題アリーナ(博士前期課程)及び創造工房(博士後期課程)におけるプロジェクトで研究開発を行っている。(会津)</p> <p>◎ 平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に「プロジェクト「起き上がりKOBOSHI」」が採択されている。(会津)</p>		
<p>◎ 平成16年度に文部科学省現代G Pに採択された、「地域連携型医学教育の試み—へき地医療支援システムと医師生涯教育の融合による誰もが健康で安心して暮らせる地域社会の実現—」では、大学附属病院本体とへき地医師派遣システムにおける外部フィールド(へき地拠点病院、自治体診療所)を教育の場に設定し、医学部学生への地域住民参加型医学教育などを通じて地域医療へ貢献する生涯型医学教育を実施している。(福島県立医科)</p> <p>◎ 平成17年度に文部科学省医療人G Pに採択された「ホームステイ型医学教育研修プログラム—地域で生きている医師の定着に向けて—」では、6年次BSLアドバンストコースの学生が、へき地においてホームステイを行い、地域医療を学ぶプログラムが実施されており、医療人G Pの支援期間終了後も福島県からの補助事業として医師の地域への定着の試みとして継続されている。(福島県立医科)</p> <p>◎ 平成22年度には文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に「能動的学習態度を醸成する臨床実習システム」が新たに採択されている。(福島県立医科)</p>		

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 平成20年度文部科学省「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」に横浜国立大学と共同で採択された「熟練技術者を活用したものづくり実践教育」では、支援期間終了後も、「首都大学東京教育改革推進事業」の一環として継続して実施している。(首都大学東京)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省大学院G Pに採択された「公共経営の人材育成プログラム」では、民間企業の経営知識を、産学公出身者が集う実践的な教育現場を通じて相互に教授、適進を図り、支援期間終了後も「首都大学東京教育改革推進事業」において、「経営学と金融工学を軸とした公共経営の人材育成プログラム」として継続して実施している。(首都大学東京)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省大学院G Pに採択された「物理と化学に立脚し自立する国際的若手育成」では、理工学研究科において、大学院生の国際化、自立的企画力の養成、企業及び社会と連携した大学院教育、専攻を超えた幅広い教育、より体系化した教育体制の5つを目標に、様々な取組を行って教育課程に反映させており、支援期間終了後も「首都大学東京教育改革推進事業」において、「物質科学における大学院教育の国際化の展開」として継続して実施している。(首都大学東京)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省大学院G Pに採択された「企画評価力を備えた創造的生命研究者の育成」では、大学院生が自らの発想に基づき、研究を企画・遂行していくために必要な能力を涵養することを目的として、平成20年度に「企画経営演習」、「国際実践演習」、「研究評価演習」の3演習科目を新たに設置し、支援期間終了後も「首都大学東京教育改革推進事業」において、「研究・仕事基礎力を踏まえた自主企画力育成」として継続して実施している。(首都大学東京)</p> <p>◎ 平成21年度文部科学省大学院G Pに採択された「理工横断型人材育成システムの再構築」では、数理学と工学の双方の発想力、思考力と実践力を身に付け、高等教育・科学技術・産業分野で活躍する人材の育成のため大学院教育の実質化を推進し、新たなキャリアパスを開拓することを目標に数理情報科学・電気電子工学・機械工学(数電機)の3専攻連携で理工横断型プログラム、連携助教、RA、AT(アドバンストチューター)、TAを活用した自主的交流活動、国際的コミュニケーション能力の養成・強化などの取組を行っている。(首都大学東京)</p> <p>◎ 平成17年度文部科学省「「魅力ある大学院教育」イニシアティブ」に「物理と化学の融合した視野の広い研究者育成」及び「異分野経験を核とする独創的思考回路の構築」が採択され、その成果を文部科学省大学院G Pの「物理と化学に立脚し自立する国際的若手育成」及び「企画評価力を備えた創造的生命研究者の育成」へと発展させている。(首都大学東京)</p> <p>◎ 平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に「自発活動力育成を軸とした仕事基礎力の向上」が採択されている。(首都大学東京)</p>		
<p>◎ 平成21年度に文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」として「医療系学部連携チームによる地域参加型学習」が採択され、医学部、薬学部、看護学部の連携による地域社会での学習等を通して、課題探求能力及び社会に通用する学士力の育成に取り組んでいる。(名古屋市立)</p> <p>◎ 平成20年度に文部科学省の「戦略的連携支援事業」として「6年制薬学教育を主軸とする薬系・医系・看護系大学による広域総合教育連携」が採択され、医療系大学等の11大学が連携し、医薬品の総合教育連携を図りながら、臨床薬学教育プログラムに取り組んでいる。(名古屋市立)</p> <p>◎ 平成20年度に文部科学省の大学院G Pとして名古屋工業大学と連携して申請した「薬工融合型ナノメディスン創薬研究者の育成」が採択され、薬学研究科においては名古屋工業大学と間で単位互換に関する協定を結び、両大学間の単位互換講義を拡充するとともに、新たな連携科目を順次開講している。(名古屋市立)</p> <p>◎ 平成18年度に文部科学省現代G Pに採択された「バナナ・ペーパーを利用した環境教育—多面的環境教育による、持続可能な社会形成主体の自己形成へ—」について、支援期間終了後もテーマ科目「環境問題への多元的アプローチ」として授業を実施し、部局横断的な教員の協力の下、学外実習を取り入れながら環境問題を学ぶ教育を継続している。(名古屋市立)</p>		
<p>◎ 地域のニーズにこたえ、地域再生のリーダーとなる人材の養成を目的とした「近江環地域再生学座」が平成18年度文部科学省「地域再生人材創出拠点の形成プログラム」に採択され、地域に根ざす大学として、「近江環人＝コミュニティ・アーキテクト」の育成に努めている。(滋賀県立)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成16年度に「スチューデントファーム「近江菜座」—まち・むら・くらしふれあい工舎—」が採択され、支援期間終了後も地域と学生とのつながりを重視した大学独自の取組として一層の充実を図り、6年間で延べ139のプロジェクトが活動を展開している。(滋賀県立)</p> <p>◎ 文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」において、平成22年度に「地域学副専攻化による学士力向上プログラム」が採択されている。(滋賀県立)</p>		
<p>◎ 平成18年度文部科学省現代G Pに採択された「大学・地域一体型チーム地域医療教育—医学・看護学教育を通じた地域医療サービスの向上—」において、医学科、看護学部の学生が共に病院実習を体験し、地域医療の必要性を認識できる取組を実施している。この支援期間の終了後も、参加学生数を拡大して取組を継続している。(京都府立医科)</p> <p>◎ 平成21年度文部科学省「看護職キャリアシステム構築プラン」に採択された「循環型教育システムによる看護師育成プラン」においては、看護学科と附属病院看護部が連携し、看護学科4年次生から看護師3年目までの4年間の継続した包括的育成プログラムを展開している。(京都府立医科)</p> <p>○ 平成20年度文部科学省「戦略的連携支援事業」に採択された「京都府立大学と京大ヘルスサイエンス系共同大学院の創設と総合的連携による大学力強化」においては、京都府立大学や京都工芸繊維大学とも連携し、3大学連携による単位互換を実施し、今後の3大学の教養教育共同化に向けた学生教育のネットワークの拡充や遠隔授業等の導入に向けた整備が進められている。(京都府立医科)</p>		
<p>◎ 平成20年度に「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」が文部科学省の教育G Pに採択され、平成22年度から「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」の授業が新設され、「両学部で学ぶ専門的連携科目」として位置付けられている。附属研究所の不登校・ひきこもりサポートセンターの運営するキャンパススクールや学外の諸施設では、学生がサポートに当たりながら援助力養成教育の学習を進めている。(福岡県立)</p> <p>◎ 平成21年度に、当該大学が代表校として申請した「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」が文部科学省の「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に採択され、九州・沖縄の看護系大学13大学が連携し、卒業後1年目を支えるメンタリングネットワークモデルの開発、「学びの文化」を構築するための学生コンソーシアムの推進、理科系科目補強教育、学部・大学院講義の相互受講体制構築等の取組を行っている。(福岡県立)</p>		
<p>◎ 平成19年度文部科学省現代G Pに「男女共同参画社会をめざすキャリア教育—学生のキャリア意識と人間力を高める21世紀高度教養教育への地方公立女子大学の挑戦—」が採択され、専門性豊かな教養を基礎に、鋭い思考力と総合的な判断力を培い、主体的に行動することができる力を養成するプログラムが強化されている。(福岡女子)</p>		
<p>◎ 平成19年度に「英語を教育言語とする学士課程教育の展開—教養教育・専門教育・専門実務教育と英語教育の統合—」が文部科学省特色G Pに採択され、「英語で学ぶ」学士課程教育を展開している。(大阪女学院)</p>		
	<p>◎ 平成16年度に「アーカイブ活用による双方向型遠隔教育」が文部科学省現代G Pに採択され、放送大学アーカイブの構築、放送教材と印刷教材の二次利用研究、双方向型教育の実践等が図られ、支援期間終了後においても、ICTを活用した遠隔教育が推進されているが、更に優れた手法の導入とICTを十分に活用できる教職員・学生の増加が期待される。(放送)</p>	

基準5 II 教育内容及び方法(文部科学省採択事業)

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成23	<p>◎ 文部科学省教育G Pにおいて、平成20年度に「携帯型端末を用いた弱視学生の資格試験対策」が採択され、携帯型端末の機動性と柔軟性を生かし、e-learningを用いた学習環境を提供している。(筑波技術)</p> <p>◎ 文部科学省学生支援G Pにおいて、平成19年度に「視・聴覚障害学生の専門性を高める学習支援」が採択され、その成果は、教育課程の編成等に反映されている。(筑波技術)</p> <p>◎ 文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」において、平成22年度に「障害学生のエンパワーメントとキャリア発達」が採択され、社会的・職業的自立に向けた指導等を行うため、キャリア発達支援学長特命プロジェクト委員会が設置されている。(筑波技術)</p> <p>◎ 文部科学省特別教育研究経費において、平成21年度に「視覚に障害を持つ医療系学生のための教育高度化改善事業」が採択され、これによるスキルラボの開設・運営等が行われ、いくつかの実習・演習等の授業で学生より良い評価を得ている。(筑波技術)</p>		
	<p>◎ プロジェクト立案(問題発見)・遂行・成果発表・評価の一連のプロセスを学生主体で体験学習する3年次必修科目「システム情報科学実習」(通称:プロジェクト学習)が、大きな教育効果を上げている。なお、この取組は平成18年度文部科学省特色G Pに採択されている。(はこだて未来)</p>		
	<p>◎ 平成20年度文部科学省教育G Pに採択された「学際統合型専門職連携教育開発プロジェクト」においては、看護学部と人間福祉学部両学部生が協働で行政と連携し、地域住民の生活・健康ニーズの把握や住民参加型ケアシステムの開発に向けた取組が行われ、平成23年度からは「専門職連携演習」(看護学部においては必修)が新設されている。(山梨県立)</p> <p>◎ 平成22年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に採択された「課題対応型S L(サービスマーケティング)による公立大学新教育モデル」においては、国際政策学部の多様な実践的学習を、サービスマーケティングという視点からカリキュラムに統合させ、学生自身の学問的取組や進路に結び付ける教育モデルを構築する取組を行っている。(山梨県立)</p>		
	<p>◎ 平成20年度より文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に採択された「共同図書環(館)のネットワークシステムの構築と新たな教養教育プログラムの開発」の取組として、ネット上での読書感想文公開を授業科目と連動して行い、教員や司書が選ぶ「今月の5冊」を毎月紹介し、さらに、各学科・専攻の推薦図書を「学科・専攻の20冊」として図書館の専用書架に配して学生に読書を勧めるなど、様々な形で自発的学習の支援を行っている。(愛知県立)</p>		
	<p>◎ 平成20年度文部科学省教育G Pに「学士力向上を図るフィールド科学の創設」が採択され、特産品加工・機能性食品の試作、特産作物づくりと地域連携フィールド実習等の取組が行われ、支援期間終了後においても、その成果が生命科学科と環境科学科を融合する新たな教育プログラム「フィールド科学」に反映されている。(県立広島)</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省現代G Pに「学生参加による世界遺産宮島の活性化ー学生が宮島の魅力を再発見し、世界に発信するー」が採択され、「地域文化学(宮島学)」に関するシンポジウムや展示会を開催することで、学生の研究成果の発表機会とし、支援期間終了後においても、宮島学センターを設置し、県立広島大学の「宮島学」として、教育・研究の特色の一つとなっている。(県立広島)</p> <p>◎ 平成18年度文部科学省現代G Pに「経営情報実践的総合キャリア教育の推進」が採択され、各種の特別講義や企業実習を組み合わせることで総合的な教育課程を展開し、支援期間終了後においても、学部独自の継続事業並びに授業科目の新設により、学生が企業実習に参加し、受入企業から高い評価を得ている。(県立広島)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省現代G Pに「ヘルササポーターマインドの発達支援ー心・技のバランスのとれた実践的保健福祉キャリア教育の推進ー」が採択され、その取組により、地域保健福祉の推進を担うことになる学生の意識の向上が認められ、支援期間終了後においても、ヘルササポーターマインドを向上させる実践・育成支援に関わる内容を関係授業科目の内容に反映させている。(県立広島)</p> <p>◎ 平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に「広島共生コミュニティによる就業力育成支援」が採択され、低学年次教育での職業観・勤労観の育成、キャリア・ポートフォリオの活用、産業界と連携した広島プレミアム科目の開講等の取組が行われている。(県立広島)</p>		
	<p>◎ 平成21年度に文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラム」に採択された「社会の中の「わたし」発見プロジェクトー時事問題を通してー」においては、時事問題を立体的に理解できるよう配慮しており、学生の社会人・市民としての社会的責任の自覚を高め、就職等のミスマッチを防ぎ、人間関係における耐性を形成している。(聖徳)</p>		